

# 白杵藩勤番武士の江戸における行動

岩淵令治

Activities of Usuki Clan Samurai Warriors on Duty in Edo

IWABUCHI Reiji

はじめに

① 日記の概要と執筆目的

② 江戸勤番中の行動

③ 勤務

おわりに

## 【論文要旨】

巨大都市江戸において、諸国から定期的に移動してくる各藩の勤番武士は重要な存在である。従来の研究では、勤番武士の行動は、外出、とくに遠出のみが注目され、「江戸ッ子」が創り出した田舎者イメージ「浅黄裏」、および江戸各所の名所をめぐる行動文化の担い手としての自由なイメージで語られてきた。こうした従来の検討に対して、筆者は勤番武士の日記や生活マニユアルについて、①江戸定住者によって作り出された田舎者のイメージから離れる、②勤務日・非外出日も含めた全行動を検討する、③外出については近距離の行動も視野に入れる、という視点から分析をすすめる、他者から見た江戸像や、江戸の体験（他文化）を経た自文化の発見、また彼らの消費行動に支えられた江戸の商人や地域を論じてきた。

本稿では、白杵藩の中級藩士国枝外右馬が初めての江戸勤番中に執筆した「国枝外右馬江戸日記」から行動を検討し、以下の点を明らかにした。

第一に、本日記は手紙のように国元に頻繁に送られており、国元への報告という性格を明確に持っていることが特徴である。勤番武士の日記の検討にあたっては、こ

した視点が今後不可欠であろう。

第二に、行動についての概要を検討し、既に検討を加えた江戸藩・庄内藩の事例と比較した。その結果、他藩士と同様に、基本的には勤務と外出制限によって、居住地から二キロメートル以上離れた場所に出る日は少なく、とくに藩邸から離れた本所・深川などへはあまり訪れていないこと、ただし本事例では外出日が若干多く、また行動範囲もやや広い傾向がある点を明らかにした。

第三に、勤務の内容から、外右馬の経験を検討し、自藩の大名社会における位置、ひいては幕府権力の巨大さを認識するに至った可能性を指摘した。これは政治都市・儀礼都市江戸における勤番による特徴的な経験であり、こうした情報が伝えられることによって、格式や自藩の位置が認識されていたのではないかと考えられる。

勤番武士については、今後、時期、藩の規模、藩士の階層、藩邸の所在地など、異なる事例を蓄積した上で、さら全行動を対象として比較・検討する必要がある。

【キーワード】近世都市、都市江戸、勤番武士、名所、日記、参勤交代、メンタルマップ

## はじめに

巨大都市江戸を語る上で、諸国から定期的に移動してくる各藩の勤番武士は重要な存在である。勤番武士については、従来は二つのイメージで語られてきた。一つは、江戸時代に「江戸ッ子」が語ってきた田舎者イメージ（「浅黄裏」）である。もう一つは、江戸各所の名所をめぐる行動文化の担い手としての自由なイメージである。これらのイメージ形成にあたっては、主に彼らの行動のうち、外出、とくに遠出のみが注目されてきた。こうした従来のイメージに対して、筆者は勤番武士の日記や生活マニアルについて、①江戸定住者によって作り出された田舎者のイメージから離れる、②勤務日・非外出日も含めた全行動を検討する、③外出については近距離の行動も検討する、という視点から分析をすすめ、江戸在住者ではない彼らから見た江戸像や、江戸（他文化）の体験を経た自文化の発見、また彼らの消費行動に支えられた江戸の商人や地域を論じてきた<sup>①</sup>。しかし、時期、藩の規模、藩士の階層、藩邸の所在地など、異なる事例を蓄積した上で、さらに比較・検討する必要がある。そこで本稿では、白杵藩（五万四〇〇〇石）の藩士国枝外右馬（一〇〇石 大小姓）が天保一三（一八四二）年三月より翌一四年六月までの初めての江戸勤番中に執筆した「国枝外右馬江戸日記」（以下「日記」と略記<sup>②</sup>）を素材としてとりあげる。同「日記」は記述が豊富であり、また筆者自身による挿図約一四〇点も伴っている点で、従来検討されてきた勤番武士の日記の中でも類を見ない希少な史料である。すでに、酒井博・谷子氏によって概要が紹介され、また筆者も江戸ッ子が語る江戸像を相対化するという視点から、「日記」の江戸の表象について簡単な紹介を試みたが、まだ多くの視角から検討が可能である。さしあたり本稿では、こうした勤番武士の日記の作成意図（①）、勤務日数や行動の基礎的な情

報を整理して、他藩の勤番武士と比較したうえで（②・おわりに）、これらで勤番武士の研究で未検討であった勤務の内容を検討することとし（③）、さらなる分析は機会を改めて行うこととしたい。なお、同史料の引用にあたっては、本文に（ ）で該当する記述の年月日を示すこととする。

## ① 日記の概要と執筆目的

本日記の執筆対象である天保一三～一四年の白杵藩の参勤交代は、三月五日白杵発、江戸着が四月二日、江戸発が翌年六月六日である。ただし、外右馬は先発隊であったため、三月七日に船で明石に上陸し<sup>⑤</sup>、三月二九日に江戸に到着している。外右馬は、国元から家来二人（梅・左五郎）を伴って、愛宕下にあった白杵藩の上屋敷（現港区西新橋一丁目）の長屋に居住した。

「日記」は、現状で横半冊二冊に綴じられ（図1）、一冊目が一七二丁で天保一三年三月二九日より九月一四日、二冊目が二八〇丁で九月一四日夕より翌年六月始めまでを収録している（表1）。このうち、一冊目の冒頭は数丁が半分欠損、二冊目の最後数丁も破損している。この破損のため、冒頭の一週間分は部分的に不読部分があり、二冊目については外右馬の正確な帰国日も不明である。確認できる期間は四一四日、全文について分析可能なのは天保一三年四月八日より一四年五月二九日までの四〇六日分となる。この間、記述が途切れた日はなく、五月から八月までやや少なくなるものの、平均して一日約一丁は記述している。

注目したいのは、この日記が八冊ずつ計一六冊の綴りからなっていることである（表1）。各綴りは収録最終の日と冒頭の日が重複し（図2）、それぞれに表題が付けられている。最初の綴り1の最後の日に「右日記十五日朝まで相記し差下候間、御覧有之候」とあるように、これらの日記は書状と同様に国元に送られた後、ある段階で二冊に綴られたのであ

図1 「日記」第一冊目冒頭（以下、掲載した史料の写真は、すべて臼杵市教育委員会所蔵である）

図2 「日記」の綴り3の最終丁と綴り4の冒頭

表 1 「日記」の概要

|    | 内 題                                 | 収録期間                                | 日数<br>(重複する日は次冊でカウントした) | 丁数  | 備 考  | 1日の平均<br>丁数 |
|----|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------|-----|--|-------------|
| 1  | 「〔 〕詰中日記 〔 〕寅三月廿九日」                 | 天保 13 (1842 年)<br>3 月 29 日～4 月 15 日 | 15<br>(全文解読可能なのは 7 日)   | 28  | 破損のため、完全に解読できるのは 4 月 8 日以降 国枝の到着は 3 月 29 日、当主は 4 月 2 日 | 1.87        |
| 2  | 「四月十五日夕方よりの日記」                      | 4 月 15 日～20 日                       | 6                       | 10  |  | 1.67        |
| 3  | 「四月廿一日昼後より日記」                       | 4 月 21 日～5 月 18 日                   | 27                      | 34  |  | 1.26        |
| 4  | 「五月十八日御便出後の日記」                      | 5 月 18 日～6 月 18 日                   | 29                      | 33  | 6 月 17～18 日の一部欠 (一丁分脱落か)                               | 1.10        |
| 5  | 「六月十八日御出便後日記」                       | 6 月 18 日～7 月 18 日                   | 29                      | 21  |  | 0.70        |
| 6  | 「七月十八日昼過ぎの日記」                       | 7 月 18 日～8 月 6 日                    | 19                      | 12  |  | 0.63        |
| 7  | 「八月七日宿状 飯沼氏ニ頼ミ候後<br>夕日記」            | 8 月 7 日～9 月 2 日                     | 25                      | 19  |  | 0.76        |
| 8  | 「九月二日 秋交代着 同三日交代<br>出立後の日記」         | 9 月 3 日～9 月 14 日                    | 11                      | 14  |  | 1.08        |
| 9  | 「九月十四日夕方よりの日記」                      | 9 月 14 日～10 月 14 日                  | 30                      | 34  | ここから第二冊  | 1.10        |
| 10 | 「十月十四日極 夕方御便状出候後の日記」                | 10 月 14 日～12 月 7 日                  | 53                      | 48  | ※丁数が増えたのは琉球人行列見物のためか                                   | 0.92        |
| 11 | 「十二月八日御出便ニ付七日昼迄相<br>記し、昼後よりの日記」     | 12 月 8 日～<br>天保 14 年 正月 2 日         | 24                      | 32  |  | 1.30        |
| 12 | 「天保十四年卯正月三日朝より」                     | 正月 3 日～正月 28 日                      | 25                      | 30  |  | 1.15        |
| 13 | 「卯ノ正月廿八日御便出後之日記」                    | 正月 28 日～2 月 27 日                    | 30                      | 32  |  | 1.07        |
| 14 | 「二月廿八日朝より日記」                        | 2 月 28 日～3 月 29 日                   | 31                      | 46  | 末尾に「三月廿九日夜半までの日記」の記載あり                                 | 1.44        |
| 15 | 「三月廿八日御出便之處御近火故晦<br>日にのび候 廿九日夜々之日記」 | 3 月 29 日～4 月 22 日                   | 23                      | 23  |  | 1.00        |
| 16 | 「四月廿二日 日光後御出便後日記」                   | 4 月 22 日～(5 月 29 日)                 | (37)                    | 35  | 破損のため、5 月 29 日以降は全文解読不可能                               | 0.95        |
|    | (合計)                                |                                     | 414 (全文解読可能日は 406 日)    | 451 |  | 1.09        |

る。国元への輸送の多くは、表題にみるように、帰国する藩士（7「飯沼氏」への委託（幸便）以外、「御便出」「御出便」「すなわち藩の公用の飛脚に託されたようである。それぞれの綴りの記載日数もこの飛脚の運行に左右された結果と考えられる。

つまり、本日記の記載内容は多岐に亘るが、その目的は江戸での体験を国元に伝えるところにあつたのである。江戸の風景の描写や訪問先の位置関係や距離を国元の場所に例えて説明する箇所が多いのも、国元の読み手への理解を助けるためであろう。参詣の供の下見で初めて藩主の菩提寺である東禅寺に行った際には、ルートを記し、さらに割書で「但し江戸の図を見て知るべし、蔵の本箱の上へ扇子の地紙にてはり候多葉粉箱かぶん（文庫）このうちに、江戸の図有之」（天保一三年四月二五日）と、さらに理解を深めるために国元にあつた江戸の情報を参照するよう、指示している。家族のうち誰が読むことができたのか、また同僚や他家の者にも閲覧を許したのかという点については、外右馬の本家筋で外右馬と共に江戸で勤番した国枝佐左衛門が日記で引

用している<sup>(6)</sup>こと以外は現時点では特定されていないが、その記述が江戸の経験を伝えるという意図で書かれていた点を重視したい。

さらに記載が詳細にわたっている背景として、初めての江戸という状況があげられる。こうした状況は、江戸勤番中の日記を書く動機として一般的であったが、とくに外右馬は「新江戸者、旅人中を声もかけられず只急ぎし処」（天保一三年四月二七日）と新しい来住者としての自己認識を日記中に吐露し、江戸の住人と同化するために服装や外見を強く気にしている。この点は、稿を改めて検討したい。さらに、外右馬は滞在二年目の年齢が数え年で四六歳であった（「拙者四十六」〔天保一四年正月六日〕）。したがって、四五歳と比較的高齢になってから初めて江戸勤番を勤めたことになる。到着から二週間ほどたった天保一三年四月一二日には、次のように記している（以下、引用史料中の括弧内は筆者の補足である）。

（前略）此節まで小屋中附合殊之外宜敷、此方勤そこなひも無之、附合中覚ちかいの不行届も無之、委敷申候得者脇々も申し候様相成り筆のせかたく候へとも、年寄にて成丈勤候方と存候所、思ひ通りにて実々拙者あんばい宜敷候、是第一大よろこひ、猶もいよく相慎可申と存候、兼而思ひ込参候通り愚鈍ハ生れ付、そのうへ年寄りにて廿五六や卅二三の人之様取まわし出来不申候ゆへ、唯々無口にて人分後れ候<sup>而</sup>も能々ならひ仕落の無之様と存候、附合二もふらち偽をいわぬやふと此方を唯々第一二存込、覚られ候方ハ勤一色ゆへ成丈きおく致し、金子衣服のさしくり、唯々人々ニみな打あけ、唯一年自分の身と存じ不申候存念なれハ、何事も苦二なく、稽古本も不読、唯々勤一色にて推移りおもしろく御座候、殊ニ家来は兩人食事ハ三度共相應の御業有之、唯々気づかひハ、附合の中無抛言葉ちがひにて表裏出来申候事の無之様といのり申候、是は無致方ものにて御座候、併只申候、とく用心致候上なれハ、十分気づかひハ無之

候、毎日／＼之寄合思付候口合、浮気とも一日二壹度申し出候事あるやなしやにて御座候、年長ゆへか皆様為合笑われ申候、前後をわきまへ候故、口の俣ニハ不申出、其中おくれ申候、ひやうしなく御座候、石田公（十郎治、一二〇石、目付<sup>(7)</sup>）などは別<sup>而</sup>ていねいと見候、毎日／＼此方ニは勤にて参候事のよしニ付、小屋ニ皆々御出有之候<sup>而</sup>も間々<sup>す</sup>をかんかへ、規度一日二壹度宛は是まで参り申候、また、相應二用事も有之候、右のさかひかねて臼杵大そふに存候所、先よろしき請合と内々心中歎申し候、於此方は御気づかひ決<sup>而</sup>御無用、只々めいわくハ面部左り目尻の種物にて御座候（後略）

おそらく、国元からの暮らしぶりを心配する手紙に対する返事として書いたくだりで、江戸での勤務を努力し、人づきあいにも細心の注意を払うことで、うまく過ごせているとしている。とくに自身が周囲と比べて老齡であることを気に懸けていることがうかがえる。

## ② 江戸勤番中の行動

### （一）行動の概要

まず、外右馬の江戸滞在中の外出の状況をみてみよう（図3）。初めて門外に出たのは四月八日であるから（「初<sup>而</sup>御門を出候ハ夜の明候様相覚候」）、全文解説ができない三月二九日の到着から四月七日までも外出していないかったことになる。以降、外出の記載のある日は計一五四日であり、天保一三年三月二九日の到着から、日記判読可能な翌年五月二九日までの計四一四日のうち、非外出日は二六〇日（六三％）、外出日は一五四日（三七％）となる。さらに、外出日でも上屋敷より二キロ



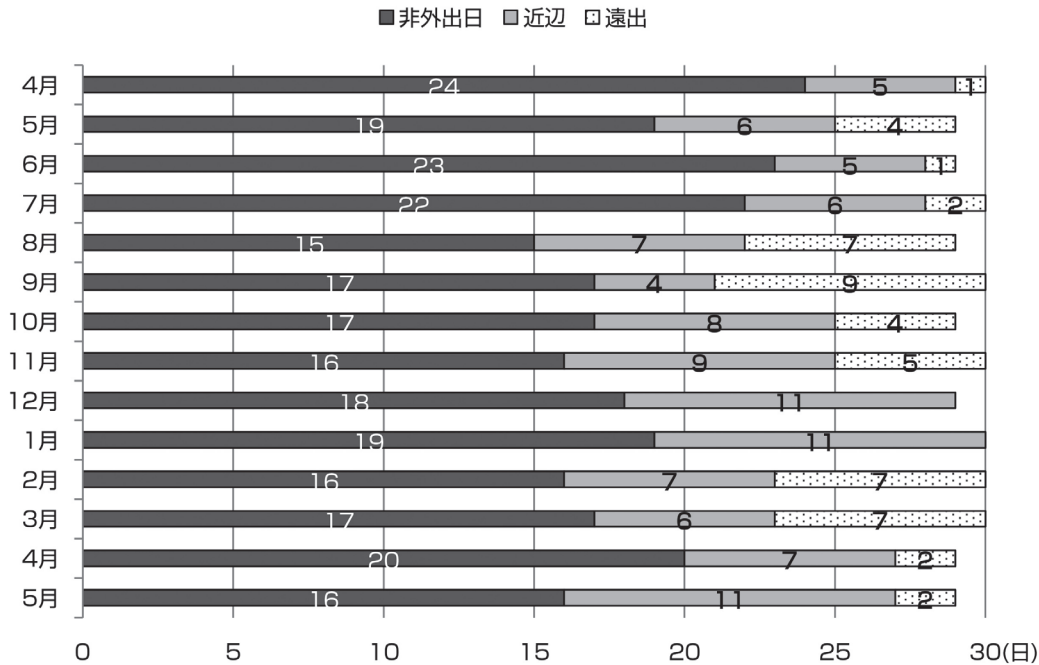


図3 外出の状況

メートル以内（近辺）が一〇三日で外出の六七％、全体の二五％、二キロメートル以上（遠出）は五日で外出の三三％、全体の一二％となつ

ている。したがって、外右馬が外出するのは一週間に二・三日で、そのうち遠出をするのは一日程度だったといえよう。また、一二月、一月のように、全く遠出していない月があることも注目しておきたい。

## (二) 外出

すでに八戸藩・庄内藩について明らかにしたように、白杵藩の場合も勤番武士の外出の回数を制限しており、出入を門札で管理していた。次にあげたのは、到着から二〇日ほどたった天保一三年四月一八日の記載である。

（前略）拙者ハ勘九（種田勘九郎、一五〇石、大小姓）・佐左衛門（国枝佐左衛門、二五〇石）殿同様最早湯札式枚・下馬札式枚出候故、湯札も下馬に致しはげみ度存候、此だん相咄し申候處、重公（前掲石田重郎治）・三公（上川三之介、二〇〇石）被申候ハ、御参勤御札相済候得者下馬札外私用札三枚者出来申候様被申候二付、左様ならば御同道可仕（後略）

新参者の外右馬ほか二人は、さきに江戸に勤番で来ていた同僚から外出に誘われたが、札の残りが少なく、残りの札を登城の供の予習のため江戸城の下馬先見学に使いたいと述べた。すると、藩主の將軍への参勤の挨拶が済めば、さらに札が支給されると教えられ、外出することにした、とある。したがって、湯札・下馬札・私用札の三種の門札が一定数支給され、その門札で外出したことがうかがえる。このうち、湯札は「湯札ハ三時限り」（天保一三年四月八日）と六時間の時間制限があった。勤番武士は、勤務による拘束と、こうした制限の中で外出していたことがうかがえる。

表2および図4・5は、通過した場所を除き、訪問した記載のある場所の分布と回数、および目的を示したもので、とくに外右馬が居住する白杵藩上屋敷（A）からほぼ半径二キロメートルの範囲については図5

に示した。訪問の回数は合計でのべ五二六回で、場所が明記される訪問場所は一七〇ヶ所（五一一回）となる。これを地域に分けると、I 南郊・西郊が最多で三〇〇回と全体の五九%を占め、次いでII 日本橋・京橋・内神田が一二回で二二%、III 外神田ほか北郊が五八回で一一%、IV 本所・深川が三三回で六%、不明が八回で二%である。白杵藩上屋敷（A）が所在するIと隣接するIIが訪問先の八割を占め、III・IV、とくにIVの訪問は極めて少ない。さらに、上屋敷からの距離に注目すると、二キロメートル圏内が、Iの1〜53の二二八回（Iの七七%）、IIの83〜94の100の六一回（IIの五四%）で、両地域の七〇%、全体の五七%となる。二キロメートル圏外では、五回以上の訪問が、遊興の場としてひんぱんに訪れたIの77品川・高輪（二二回）と61内藤新宿（八回）、藩の菩提所である72東禅寺（五回）、IIで袋物類の購入先の丸屋利助の店舗があった101瀬戸物町（九回）と117おらんだや（五回）のほかは、IIIの128上野（六回）、滞在中の天保一三年九月より芝居小屋のあった133猿若町（八回）のみである。また、図4の範囲（上屋敷から一〇キロメートル）外となったのは、62堀之内、79池上本門寺、80川崎大師・81梅屋敷（蒲田）・82大森之内角石之社（天保一三年九月二二日）、および168鴻之台・真間、169八幡、170中山法華経寺（天保一四年四月二六日）で、このほか外右馬が取りやめた遠出で、「北ざはに牡丹見」（天保一四年四月二日）がある程度であった。ちなみに「北ざは」は北沢（現世田谷区）で、実際に同僚が出かけている。

先述したように、外出のうち二キロメートル以上の遠出をした日が外出日数の約三割であったことも併せて考えると、外出は居住先から二キロメートル圏内が中心であった。二キロメートル以上離れた場所についてもIIIの上野・猿若町を除き、複数回訪れるのは藩邸を含むIないし隣接したIIで、III・IVの地域を訪れることは少なかったといえよう。

目的と地域の関係も確認しておきたい。行き先の目的について一一項

目を設定し、一つの訪問場所に複数の目的があった場合、それぞれの目的に集計した結果、目的の合計は計五二六となった。さらに、訪問場所は不明であるが目的が判明する三八回を加え、計五六四となる。その内訳を示したのが、表2・図6である。目的は、買物、次いで食事・宴席、参詣、見物、文化的交流、入湯、芸能鑑賞、髪結、下馬見、その他となっている。あくまでも記述から判断できるものであり、入湯・髪結といった日常的な目的は省略されている可能性も多いが、買物が圧倒的に多い点が注目される。

次に、地域と目的の関係を検討したい。まず、IVは目的別の三四のうち見物が一一、参詣が一五と多くを占める。訪問先は、繁華街の155両国橋広小路のほか、150（富岡・深川）八幡・元八幡（富岡八幡宮）、151三十三間堂、152洲崎弁天、154回向院、157五百羅漢、158亀井戸天神、161萩寺、162新梅屋敷、163三囲稲荷、164牛の御せん、165白ひげ、167梅若塚といった本所・深川の名所と、遠方ながら『江戸名所図会』に掲載されている先述の鴻之台ほか（168〜170）、いずれも当時の著名な名所である。食事・買物二の多くは、165白ひげの傍らの茶屋や153小倉庵など、こうした行動に伴うものである。また、IIIは目的別の六五のうち、見物が二二、参詣が一四と、半数を占める。特筆されるのは芸能と文化的交流である。前者は133猿若町の芝居鑑賞、後者は122湯嶋聖堂の講釈聞、126細川林谷（下谷三味線堀）、谷文晁の息子127絵師文二（下谷二長町）、130奥田先生（浅草新堀端）への訪問によるものである。<sup>(8)</sup>一方、IIは目的別の一一三のうち、参詣は一、見物は六に過ぎず、買物が八四を占める。特記すべきは、供勤めの際の学習を兼ねた江戸城の下馬先の見物と、猿若町移転以前の芝居見物、尾張町の雛市であろう。以上の点から、III・IVへの訪問の主たる目的は見物や参詣、IIは買物であり、これに文化的交流や芝居見物といった特定の目的が加わった行動といえよう。

これに対して、Iについては、目的別の三〇九の内訳は買物を筆頭に



図4 国枝外右馬の訪問先(1)

しながらも、入湯、髪結といった日常的な項目が入っている。食事については、藩邸から二キロメートル圏内の日常的な食事に加え、品川・高縄での宴会というハレの食事も含め、行動の中心といえよう。

こうした点で、前稿で紹介した外右馬作成の藩邸近辺の絵図(図7)にあらためて注目しておきたい。江戸到着から約三週間後の天保一三年四月二三日に日記に書き込まれたこの絵図は、大絵図など版行されていた絵図をもとに作成されたと思われるが、注目したのは、その絵図の範囲と、記載内容である。図8には、読み取り図を示した。記載されている店舗は、日記に頻繁に登場する近辺の仕立屋や髪結床、湯屋、料理屋であるから、外右馬の日常生活圏を示したものとみてよいだろう。また、神





社、町の木戸(■)・火の見櫓や大名屋敷の門、外右馬にとつてのランドマーク、「至ル」という記載がある道は外右馬のよく使うものであろう。武家屋敷の拝領主の名前や門は、登城の供の際の行き交い(③)(三三)を意識して描かれた可能性もある。こうしたことから、本図はメンタルマップ(認知地図)<sup>10)</sup>ともいえる。この情報をいち早く把握・整理し、国元に送ったのであろう。勤番武士の日常生活においては、遠方の訪問先よりこうした近辺地域が重要だったのである。近辺の商人・職人は、日常生活に欠かせない存在であり、また商人・職人にとっても勤番武士は重要な顧客であった。外出先の詳細な検討、および同絵図と近辺の商人・職人との関係については稿を改めて論じたい。<sup>11)</sup>

表2 訪問先と目的

| 地 域                 | 通し<br>番号 | 行き先  | 訪問<br>回数 | 目 的    |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|---------------------|----------|--|----------|--------|---------------|--------|--------|-----------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|
|                     |          |  |          | 買<br>物 | 食<br>事・<br>宴席 | 参<br>詣 | 見<br>物 | 文<br>化<br>的<br>交<br>際 | 入<br>湯 | 芸<br>能<br>鑑<br>賞 | 髪<br>結 | 下<br>馬<br>見 | そ<br>の<br>他 | 不<br>明 |
| 居所                  | A        | 上屋敷  |          |        |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
| I 南郊・西郊<br>300〈59%〉 | B        | 下屋敷・下屋敷近辺 ※私用のみ  | 2        |        |               |        | 2      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 1        | (万屋) 利右衛門(仕立や利右衛門)(太右衛門町<br>1843年3月より火事で二葉町に仮宅(天保14年3月<br>28日の記事による) | 23       | 18     |               |        |        |                       |        |                  |        |             | 2           | 3      |
|                     | 2        | 利右衛門隣之湯屋   | 7        |        |               |        |        |                       | 7      |                  |        |             |             |        |
|                     | 3        | 伊勢屋八兵衛(太右衛門町)  | 1        | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 4        | 武蔵屋(備前丁)   | 4        |        | 3             |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 1      |
|                     | 5        | (備前町の湯屋)   | 1        |        |               |        |        |                       | 1      |                  |        |             |             |        |
|                     | 6        | 毛利様前の髪結い   | 1        |        |               |        |        |                       |        |                  | 1      |             |             |        |
|                     | 7        | 金毘羅  | 2        |        |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 8        | 戸田屋隣の髪結(本郷代地)  | 4        |        |               |        |        |                       |        |                  | 4      |             |             |        |
|                     | 9        | 戸田屋(本郷代地)  | 1        | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 9        | 相模屋(本郷代地)  | 1        |        |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 1      |
|                     | 9        | 本郷代地   | 1        | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 10       | 清水屋(本郷代地)  | 7        |        | 7             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 11       | 久保丁(・蕎麦屋・釜屋)   | 10       | 6      | 3             |        |        |                       |        |                  |        |             | 1           |        |
|                     | 12       | 錦泉堂(善右衛門丁 菓子屋)   | 2        | 2      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 13       | 兼房町  | 1        | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 14       | (久保町の湯屋)   | 1        |        |               |        |        |                       | 1      |                  |        |             |             |        |
|                     | 15       | 烏森稲荷   | 2        |        |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 16       | 愛宕山  | 7        |        | 3             | 1      | 3      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 17       | えのき坂通り   | 1        |        |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 1      |
|                     | 18       | 幸橋(広小路)  | 3        | 1      |               |        |        |                       |        | 1                |        |             |             | 1      |
|                     | 19       | 土橋の向店の田楽   | 1        |        | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 20       | 増田(二葉町)  | 6        |        | 5             |        |        |                       |        |                  |        |             | 1           |        |
|                     | 21       | 二葉町(寄席・※伊勢源(二葉丁「ウナキ□チヤ伊<br>勢ゲン」)                                     | 2        |        | 1             |        |        |                       |        | 1                |        |             |             |        |
|                     | 22       | 綿屋(※芝口一丁目か)  | 2        |        | 2             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 23       | 松坂屋  | 3        | 3      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 24       | 新橋を渡ったところ 芝口二丁目  | 1        | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 25       | 日影町  | 21       | 20     |               |        | 1      |                       | 2      |                  |        |             |             | 1      |
|                     | 26       | 露月町薬湯  | 2        |        |               |        |        |                       | 2      |                  |        |             |             |        |
|                     | 27       | 芝神明  | 6        |        | 1             | 4      |        |                       |        | 2                |        |             |             |        |
|                     | 28       | 神明前・芝三嶋町   | 12       | 10     | 1             |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 29       | きっこうや(神明前か)  | 1        | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 30       | 中門前・片門前  | 6        | 5      |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 30       | 七軒町  | 2        | 1      | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 31       | 切通し見せ  | 2        | 2      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 32       | 金地院  | 1        |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 33       | 増上寺  | 2        |        |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 34       | 土器町  | 6        | 6      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                     | 35       | 服部(元彰)(★赤羽根森元町)  | 16       |        |               |        |        | 16                    |        |                  |        |             |             |        |

| 地 域 | 通し<br>番号 | 行き先                                   | 訪<br>問<br>回<br>数 | 目 的    |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|-----|----------|---------------------------------------|------------------|--------|---------------|--------|--------|-----------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|
|     |          |                                       |                  | 買<br>物 | 食<br>事・<br>宴席 | 参<br>詣 | 見<br>物 | 文<br>化<br>的<br>交<br>際 | 入<br>湯 | 芸<br>能<br>鑑<br>賞 | 髪<br>結 | 下<br>馬<br>見 | そ<br>の<br>他 | 不<br>明 |
|     | 36       | (荒木) 寛快・寛一 (★芝森元町)                    | 6                |        |               |        |        | 6                     |        |                  |        |             |             |        |
|     | 37       | 赤羽根                                   | 8                | 6      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 2      |
|     | 38       | 丸や (赤羽根橋を越えたところ)                      | 1                |        | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 39       | 赤羽根丸竹や長右衛門 (山下丁 古着番付 (四番)<br>嘉永6年田中書) | 7                | 7      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 40       | 瓦屋                                    | 1                |        | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 41       | 水天宮                                   | 3                |        |               | 3      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 42       | 松平右近様御屋敷                              | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 43       | いかりや (吹手町右近様前)                        | 1                |        | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 44       | 西久保ふきで丁紙屋                             | 4                | 4      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 45       | 西島 (★周道 俊佐 西久保葺手町)                    | 6                |        |               |        |        | 6                     |        |                  |        |             |             |        |
|     | 46       | 大久保加賀様御中屋しき秋暉岡本祐之丞                    | 7                |        |               |        |        | 7                     |        |                  |        |             |             |        |
|     | 47       | 市兵衛町 (梶野玄長ほか)                         | 2                | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             | 1           |        |
|     | 48       | 丹波谷                                   | 1                |        |               |        |        | 1                     |        |                  |        |             | 1           |        |
|     | 49       | 日比屋                                   | 1                | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 50       | 山王権現                                  | 1                |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 51       | 松平出羽様 (松江藩) 中屋敷 宇佐美金八 鶴山先生            | 1                |        |               |        |        | 1                     |        |                  |        |             |             |        |
|     | 52       | 安部摂津守様 (岡部藩) 御屋敷天神様                   | 1                |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 53       | 平河天神前おてつばたん餅                          | 1                |        | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 54       | こうじ町                                  | 1                | 1      |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 55       | 四ツ谷城州屋                                | 4                |        |               |        |        |                       |        |                  |        |             | 4           |        |
|     | 56       | 荻生惣右衛門 (★牛窪火之番町)                      | 1                |        |               |        |        |                       |        |                  |        |             | 1           |        |
|     | 57       | 穴八幡                                   | 1                |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 58       | 市谷柳町                                  | 1                |        | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 59       | 根来衆長屋 (紀州様御下屋敷の方)                     | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 60       | 高田馬場と周辺                               | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 61       | 内藤新宿                                  | 8                |        | 7             |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 62       | 堀之内 (・茶屋しがらきや)                        | 1                |        | 1             | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 63       | 広尾                                    | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 64       | 狐うなぎ                                  | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 65       | 三田で琉球人見物                              | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 66       | 田町                                    | 2                |        |               |        | 1      |                       | 1      |                  |        |             |             |        |
|     | 67       | 日ぎり地藏 (白金松秀寺)                         | 2                |        |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 68       | 清正公                                   | 2                |        |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 69       | 魚藍観音 (三田)                             | 1                |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 70       | 泉岳寺四十七人の墓                             | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 71       | 大仏堂 (高輪如来寺)                           | 1                |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 72       | 東禅寺                                   | 5                |        |               | 5      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 73       | (目黒明王院) 念仏堂・富士見茶屋 (行人坂)               | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 74       | 岩や弁天 (目黒蟠龍寺)                          | 1                |        |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|     | 75       | たこ薬師角の店                               | 1                |        |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |

| 地 域                                | 通し<br>番号       | 行き先  | 訪<br>問<br>回<br>数 | 目 的    |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|------------------------------------|----------------|--|------------------|--------|-------------------|--------|--------|-----------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|
|                                    |                |  |                  | 買<br>物 | 食<br>事・<br>宴<br>席 | 参<br>詣 | 見<br>物 | 文<br>化<br>的<br>交<br>際 | 入<br>湯 | 芸<br>能<br>鑑<br>賞 | 髪<br>結 | 下<br>馬<br>見 | そ<br>の<br>他 | 不<br>明 |
|                                    | 76             | 目黒不動   | 2                |        | 1                 | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 品川   | 1                |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 相州（歩行新宿二丁目）                                  | 2                |        | 2                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | みなとや（歩行新宿二丁目）                                | 1                |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 島崎（歩行新宿三丁目）                                  | 1                |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 大和屋（歩行新宿一丁目）                                 | 3                |        | 3                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 坂本（歩行新宿二丁目）                                  | 1                |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 高輪   | 4                |        |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 4      |
|                                    | 77             | 尾州（高輪）                                       | 4                |        | 4                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | （高輪） 河崎屋                                     | 1                |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 77             | 高輪釜屋   | 4                |        | 4                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 78             | 御殿山  | 2                |        |                   |        | 2      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 79             | 池上本門寺  | 1                |        |                   | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 80             | 川崎大師（・河崎屋）                                   | 1                |        | 1                 | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 81             | 梅屋敷（蒲田）                                      | 2                | 1      |                   |        | 2      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 82             | 大森之内角石之社                                     | 1                |        |                   | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | ア              | 紀州様の組屋敷浄念寺                                   | 1                |        |                   |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | イ              | 盤梯（大槻磐溪）（『安政文雅人名録』〈早稲田大学<br>図書館蔵〉では「木挽町四丁目」） | 2                |        |                   |        |        | 2                     |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | I 訪問日数／目的別回数小計 |  | 300<br>/309      | 101    | 61                | 36     | 24     | 39                    | 14     | 4                | 5      | 0           | 11          | 14     |
| II 日本橋・<br>京橋・<br>内神田<br>112 〈22%〉 | 83             | 八官町・加賀丁岩城屋丈助                                 | 14               | 13     |                   |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 84             | 八官町嶋田  | 5                | 5      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 85             | 宗十郎町和登太夫                                     | 4                |        |                   |        |        |                       |        | 2                |        |             |             |        |
|                                    | 86             | 竹川町栗山  | 2                | 2      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 1      |
|                                    | 87             | 布袋や  | 14               | 14     |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 87             | いづみや（布袋屋の向い）                                 | 1                |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 87             | 布袋屋の隣の染め屋                                    | 3                | 3      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 88             | 尾張町（雛市）、いとや                                  | 2                | 1      |                   |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 89             | すきや橋前鍵屋町 岡田                                  | 1                | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 90             | 木挽町  | 5                | 1      |                   |        |        |                       |        | 4                |        |             |             |        |
|                                    | 91             | 伏見屋（馬具屋 弓町の1丁先）                              | 1                | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 92             | 京橋近辺   | 2                | 1      | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 93             | 塩瀬（本店なら京橋北一丁目）                               | 1                | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 94             | 新橋通り山吹（☆御茶漬 新橋北紺屋町 山富貴源<br>太郎）               | 2                |        | 2                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 95             | おが丁 掛物やいせや長兵衛ほか                              | 3                | 3      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 96             | 檜物町の大黒屋                                      | 1                | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 97             | 日本橋三丁目位文魁堂                                   | 1                | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 98             | 白木屋（日本橋通一丁目東南角）                              | 3                | 3      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 99             | 須原屋  | 1                | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |
|                                    | 100            | 下馬見（西丸下ほか）                                   | 4                |        |                   |        |        |                       |        |                  |        | 4           |             |        |

| 地 域                      | 通し<br>番号       | 行 き 先   | 訪<br>問<br>回<br>数 | 目 的         |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|--------------------------|----------------|---|------------------|-------------|---------------|--------|--------|-----------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|---|---|
|                          |                |   |                  | 買<br>物      | 食<br>事・<br>宴席 | 参<br>詣 | 見<br>物 | 文<br>化<br>的<br>交<br>際 | 入<br>湯 | 芸<br>能<br>鑑<br>賞 | 髪<br>結 | 下<br>馬<br>見 | そ<br>の<br>他 | 不<br>明 |   |   |
|                          | 101            | 瀬戸物町・丸利（※このときは瀬戸物町へ移転〈天保13年12月19日の記事〉, ☆「日本橋通二丁目丸屋利助 袋物類卸・小売」か）・茶漬屋 | 9                | 9           | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 102            | 三井越後屋（駿河町）  | 4                | 3           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 103            | 本町  | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 104            | 豊島屋（鎌倉町）  | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 105            | 木屋（豊島屋のそば）  | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 106            | 鷹橋（高尾か）稲荷   | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 107            | 人形町   | 1                |             | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 108            | 小網町釜屋佐右衛門・陸奥  | 2                | 2           | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 109            | 大阪町銀座の後みようがや治兵衛   | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 110            | 江戸橋あたり・四日市  | 3                | 3           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 111            | 吹屋町さかい町（芝居小屋の跡地）  | 1                |             |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 112            | 葺屋町の湯屋  | 1                |             |               |        |        |                       | 1      |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 113            | 富沢町   | 1                |             |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 114            | 久松町   | 1                |             |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 115            | 大丸（通旅籠町）  | 4                | 4           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 116            | 大伝馬町うら式丁目（武藤主税）   | 1                |             |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   | 1 |
|                          | 117            | （大）伝馬町三丁目おらんだや  | 5                | 5           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 118            | 今川橋の北側あたりの星店  | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 119            | 小川町   | 1                |             | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | ウ              | （日本橋の店の感想）  | 1                |             |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        | 1 |   |
|                          | エ              | 日本橋の献残屋   | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | Ⅱ 訪問日数／目的別回数小計 |   |                  | 112<br>/113 | 84            | 8      | 1      | 6                     | 0      | 1                | 6      |             | 4           | 1      | 2 |   |
| Ⅲ 外神田ほか<br>北郊<br>58〈11%〉 | 120            | 水戸藩上屋敷  | 1                |             |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 121            | 筋違そと松王堂   | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 122            | 聖堂  | 3                |             |               |        |        | 3                     |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 123            | 湯島天神  | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 124            | 神田明神  | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 125            | 牛天神   | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 126            | 細川林谷（★下谷三味線堀）   | 1                |             |               |        |        | 1                     |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 127            | 絵師文二（★下谷二長町）  | 3                |             |               |        |        | 3                     |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 128            | 上野寛永寺・上野下   | 6                | 3           | 1             | 1      | 5      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 128            | 不忍池   | 1                |             | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 129            | 御影堂（扇屋 浅草諏訪町）   | 1                | 1           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 130            | 奥田先生（浅草新堀端）   | 1                |             |               |        |        | 1                     |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 131            | 伝通院   | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 132            | 浅草寺および周辺  | 4                | 1           | 2             | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 133            | 猿若町   | 8                |             |               |        | 3      |                       |        | 5                |        |             |             |        |   |   |
|                          | 134            | 吉原  | 3                |             |               |        | 3      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 135            | 鷲大明神  | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |
|                          | 136            | 増崎のいなり（真崎稲荷）  | 1                |             |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |   |



| 地 域                | 通し<br>番号       | 行 き 先                | 訪 問<br>回 数 | 目 的       |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|--------------------|----------------|----------------------|------------|-----------|---------------|--------|--------|-----------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|---|
|                    |                |                      |            | 買<br>物    | 食<br>事・<br>宴席 | 参<br>詣 | 見<br>物 | 文<br>化<br>的<br>交<br>際 | 入<br>湯 | 芸<br>能<br>鑑<br>賞 | 髪<br>結 | 下<br>馬<br>見 | そ<br>の<br>他 | 不<br>明 |   |
|                    | 137            | 根岸                   | 1          |           | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 138            | 根津権現                 | 1          |           |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 139            | (円乗寺)                | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 140            | 上野天王寺                | 1          |           | 1             |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 141            | 道灌山・日暮里              | 2          |           |               |        | 2      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 142            | 白山権現                 | 1          |           |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        | 1 |
|                    | 143            | 雑司ヶ谷（鬼子母神）           | 2          |           |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 144            | 吉祥寺前                 | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 145            | 六義園                  | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 146            | 染井植木                 | 2          |           |               |        | 2      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 147            | 飛鳥山                  | 2          |           |               |        | 2      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 148            | 王子（王子稲荷・王子権現・海老屋・扇屋） | 2          |           | 2             | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | オ              | 本通りの寒ざくという茶屋（上野か）    | 1          |           | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | カ              | 尾張の本屋永らくや（上野か）       | 1          | 1         |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | Ⅲ 訪問日数／目的別回数小計 |                      |            | 58<br>/65 | 6             | 9      | 14     | 22                    | 8      |                  | 5      |             |             |        | 1 |
| Ⅳ 本所・深川<br>33 〈6%〉 | 149            | 深川新地亀屋               | 2          |           | 2             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 150            | （富岡・深川）八幡            | 1          |           |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 150            | 元八幡（富賀岡八幡宮）          | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 151            | 三十三間堂                | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 152            | 洲崎弁天                 | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 153            | 小倉庵                  | 1          |           | 1             |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 154            | 回向院                  | 3          |           |               | 2      | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 155            | 両国橋広小路（西詰）           | 1          |           |               |        | 1      |                       |        | 1                |        |             |             |        |   |
|                    | 156            | 浅草橋付近                | 2          | 2         |               |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 157            | 五百羅漢（羅漢寺）            | 1          |           |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 158            | 亀井戸天神                | 2          |           |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 159            | 妙見（本所）               | 2          |           |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 160            | 原庭御茶屋（下屋敷）           | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 161            | 萩寺                   | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 162            | 新梅屋敷                 | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 163            | 三囲稲荷                 | 1          |           |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 164            | 牛の御ぜん                | 2          |           |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 165            | 白ひげ・其傍の茶屋            | 2          |           | 1             | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 166            | 隅田川                  | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 167            | 梅若塚                  | 2          |           |               | 2      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 168            | 鴻之台・真間               | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 169            | 八幡                   | 1          |           | 1             |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | 170            | 中山法華経寺               | 1          |           |               | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | キ              | 永代寺門前通り～新地石場～中町      | 1          |           |               |        | 1      |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|                    | Ⅳ 訪問日数／目的別回数小計 |                      |            | 33<br>/34 | 2             | 5      | 15     | 11                    |        |                  | 1      |             |             |        |   |

| 地 域          | 通し<br>番号 | 行 き 先      | 訪 問<br>回 数      | 目 的    |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|--------------|----------|------------|-----------------|--------|-------------------|--------|--------|-----------------------|--------|------------------|--------|-------------|-------------|--------|---|
|              |          |            |                 | 買<br>物 | 食<br>事・<br>宴<br>席 | 参<br>詣 | 見<br>物 | 文<br>化<br>的<br>交<br>際 | 入<br>湯 | 芸<br>能<br>鑑<br>賞 | 髪<br>結 | 下<br>馬<br>見 | そ<br>の<br>他 | 不<br>明 |   |
| 不 明 8 (2%)   | ク        | 露木         | 2               | 2      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|              | ケ        | 大和田うなぎ     | 1               |        | 1                 |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|              | コ        | 本通り雁皮紙     | 1               | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|              | サ        | 駿河屋        | 1               |        |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             | 1      |   |
|              | シ        | 近江屋庄七      | 1               | 1      |                   |        |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|              | ス        | (寄席 磐梯のそば) | 1               |        |                   |        |        |                       | 1      |                  |        |             |             |        |   |
|              | セ        | 西行寺        | 1               |        |                   | 1      |        |                       |        |                  |        |             |             |        |   |
|              |          |            | 不明 訪問日数／目的別回数小計 | 8      | 4                 | 1      | 1      |                       |        |                  | 1      |             |             |        | 1 |
| 訪問日数／目的別回数小計 |          |            | 511<br>/526     | 195    | 84                | 67     | 63     | 47                    | 15     | 17               | 5      | 4           | 12          | 17     |   |
| 行先不明         | 行先<br>不明 | 入湯（行先不明）   | 26              |        |                   |        |        |                       | 26     |                  |        |             |             |        |   |
|              | 行先<br>不明 | 薬湯         | 2               |        |                   |        |        |                       | 2      |                  |        |             |             |        |   |
|              | 行先<br>不明 | 髪結い？       | 10              |        |                   |        |        |                       |        |                  | 10     |             |             |        |   |
| 合 計          |          |            |                 | 195    | 84                | 67     | 63     | 47                    | 43     | 17               | 15     | 4           | 12          | 17     |   |

- ・公用の外出で立ち寄った場所は除いた。また、通過のみで、とくに記述もない場所については省いた。
- ・番号欄のアラビア数字は図4・5に対応する。
- ・番号欄のカタカナは正確な場所が特定できなかった訪問先である。このうち、地域が特定できるものは、各地域の最後に入れた。
- ・同一の訪問日でも複数の目的の場合、それぞれをカウントした。このため、訪問日数よりも目的の合計回数が多い場合がある。
- ・行き先の欄の※は図7による。
- ・行き先の欄の★は「諸家人名江戸方角分」(文化12(1815)年～文政元(1818)年刊)、☆は『江戸買物独案内』(文政7年刊)による。

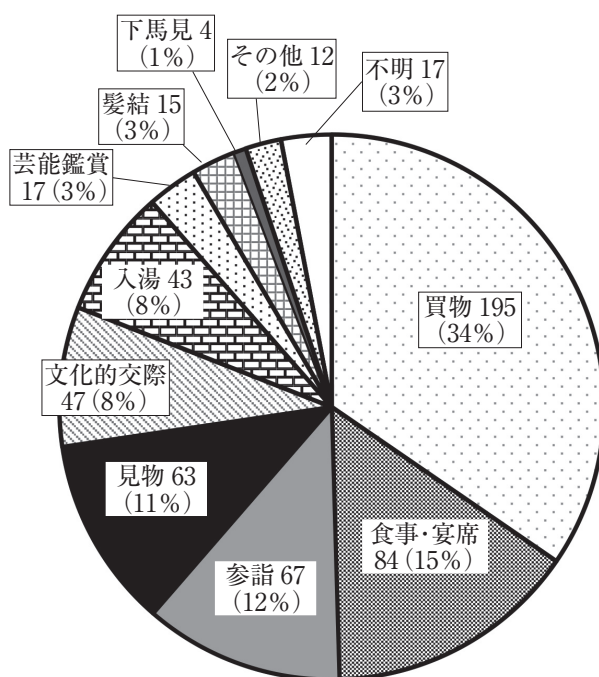


図6 外出の目的

図7 国枝外右馬の“メンタルマップ”（天保14年4月23日）

図8 国枝外右馬の“メンタルマップ”読み取り図

（『江戸復原図』〔東京都，1990年〕をもとに作成。武家屋敷のうち（ ）は「御府内往還其外沿革図書」（国立国会図書館所蔵）で拝領者未確認，[ ]内は正しい拝領者を示す。）

### ③ 勤務

#### (一) 勤務の概要

次に勤務の概要を確認しておきたい。勤務は御殿番、供、使者が基本で、このほかに天保一三年一月に命じられた方角火消（桜田組）に伴う消防があった。また、臨時のものとして、天保一四年四月、將軍の日光社参に伴って夜間の辻番詰を四日間勤めている。表3には、日光社参中の辻番詰を火消出勤の項に含め、それぞれの各月の回数を示した。一日で異なる勤務を行った場合は両方でカウントした。勤務と外出を同じ日に行っている場合も同様である。また、供と使者については、四月より七月一五日までのデータは天保一三年七月一八日に本人が書き上げた「御供の覚」、八月より一二月も同様の「御供の覚」から作成した。それ以外は日記の記述からカウントした。このため、本人の書上部分では供・使者の行き先の全貌と本人が勤めた分(○)が確認できるが、それ以外の部分については全貌は不明である。

以上の勤務のべ回数は、二四九回であった。こうした職務にかかわる記述も自己の家への伝達という目的をもって詳細に行われており、幕府儀礼の実態<sup>(12)</sup>や火事場の状況<sup>(13)</sup>を伝えるものとして貴重である。ここでは、外右馬自身の経験という点にも注目しながら、それぞれの職務をみていきたい。

#### (二) 御殿番

御殿番は最も基本となる職務で、一一五回となっている。勤務は交代で行われ、白杵藩については、「拙者泊り番にて\*五二出四二交代致し、朝出候人又八二交代、暮二四出入泊り相勤\*」（以下、史料中の割書は、

冒頭と末尾に\*を付して示すこととする）白杵入合過罷出る、是ハ新参者ハ励と申、早く罷出候由」（天保一三年四月二日）という記載が参考になる。他の記事にも拠れば、四ツ（現在の二〇時）〜八ツ（二四時）朝番↓八ツ（二四時）〜暮 夕番↓五ツ（二〇時）〜四ツ（一〇時）泊り番で、朝番の者は一度休んでから泊番を勤め、翌日に夕番を勤めるのが基本であった。交代の割り振りは供（次項参照）と合わせて「御番割」で指示された。しかし、「今朝出番、当月三三八の番と成申候、但し極りハ一ヶ月三八に候得共、御供等罷出候ニ付助番ふりかわり扨し御座候」（天保一三年九月八日）とあるように、九月以降は基本的に三・八の付く日が御殿番の開始日に固定されたにもかかわらず、急な供出による振り替えや、藩士の都合による相互の勤務日の交換などが多発したのである。

御殿番の基本的な職務内容は、到着後の天保一三年四月一四日に藩士から「伝授」された書院の間への使者の取り次ぎ（「御書院御使者取次之趣」、ほか「御取次御番」（天保一三年一〇月二三日）など、来客への対応であった。図9は正月の取り次ぎの様子で、玄関に座っている「御取次」が外右馬自身である。

御殿番の勤務は、来客が少ない時期はそれほど忙しくなかったようである。泊番で「夫々泊り二いで書状を祢てよりか、んする処」（天保一三年九月一二日）、「金子用心にて定府衆と泊り候へ者祢いらす候」（天保一三年五月一六日）、日中の番で「八ツ時まへ御番二出候而絵図次立日本橋の方を写し、亥十郎（稲葉亥十郎、大小姓）相番太閤記を読申候」（天保一三年九月二五日）とあるように、仮眠、書状や写し物、読書など、閑な時間も多かった。次にあげたのは御殿番中のある騒動である（天保一三年六月三日）。

（前略）今日者珍敷御膳廻しニ源五兵衛（飯沼源五兵衛、四〇俵二人扶持）ニ参申候、夫々九半時分ニ引取御番二出候処 御殿者福田公（福田源介、一〇〇石、小姓）・司書（稲葉司書、一〇〇石、大



表3 勤務

| 月              | 勤務<br>(御殿) | 使者 | 供          | 供 備 考  | 火消出動・<br>待機・見回り |
|----------------|------------|----|------------|--|-----------------|
| 4 月            | 9          | 12 | 5          | 二丁出1回＝八幡宮御下屋敷、ほか「御着ニ而同十一日御対客、同廿二日参勤の御登城、此已後より勘九郎佐左衛門見習と覚候」を加える   |                 |
| 5 月            | 5          |    | 5          | 二丁出2回＝「山内公・南部公、但し廿四日周防様初御左り御駕脇相動る佐左衛門殿出立致候日なり」   |                 |
| 6 月            | 7          |    | 7          | 二丁出1回＝「夕方奥平様朝御内書御受御駕脇式度」   |                 |
| 7 月<br>(15日まで) | 7          |    | 4          | 二丁出2回＝「御廻勤の御下屋敷、増上寺の御下屋敷」  |                 |
| 8 月            | 8          | 12 | 2<br>(3)   | 「二丁 朔日○御左 御登城 夕御下屋敷 八朔の大込合、三日○棒鼻御対客、六日雨 御登城御帰り御下屋敷メ三度」   |                 |
| 9 月            | 8          |    | 10<br>(18) | 「御屋敷の十八丁 二丁 朔日○御左 御登城 夕方仙石様、五日 十三丁 御下屋敷、七日○棒 卅二三丁 御対客より亀井様御下屋敷深川、九日 御登城、十日○御左 御むかひ京極様、十一日 新庄様、十五日○棒 御登城 西丸はだかにて四方様ニ御合セ、十六日 南部様、十七日○棒 水野様御帰り亀井様、十九日○御左 毛利様 御酒御吸物頂戴仕候、廿日○棒 原庭 大殿様殿様御出今日奥様新庄様ニ御出、廿一日 田村様、廿三日 周防様、廿四日○棒 溝口様、廿五日 鍋嶋様、廿八日 ○棒 山内様、廿九日 奥平様より土州様五ツ時分、晦日 ○棒 上野 メ拾八度」   |                 |
| 10 月           | 11         |    | 9<br>(17)  | 「十月朔日○棒 十八丁御登城の御下屋敷 二丁、二日 廿丁 奥平左衛門尉様鉄炮洲 夕溝口様、三日○御左マワリテ廿丁余 御対客、五日 七丁 田村小路、六日○棒 廿丁 織田大和様 二丁、七日 二里余堀丹波様 夕御下屋敷、八日 ○御左十三丁 御下屋敷 強練御相談之由、十日 拾九丁黒田様甲斐侯、十一日○棒 廿三丁細川能州 鉄炮洲、十三日 御登城前十五丁 水野様、十五日○棒 御登城 大殿様十四日御入ニ付御下屋敷無之、十七日 一里斗 東禅寺、十九日○一里斗 酒井石見様、廿一日 御家老中御内書五月九月歳暮ニ有之由 二丁、廿二日 ○ 五丁 相良公 夕方毛利様日が窪、廿八日 廿五丁 秋月様、廿九日○ 一里半 上野 メ拾七度」 |                 |
| 11 月           | 10         |    | 9<br>(16)  | 「十一月朔日○ 御登城 夕方亀井様、三日 御下屋敷、五日 五丁 溝口様、六日○ 御登城前 水野様、七日○ 御対客 水野様、八日 一里斗 松前様、九日 十三丁 水野様御防御役之御受、十一日○ 廿四丁 山内様、十三日○ 御対客、十五日 御登城、十七日○ 卅丁 筋違橋御詰、十九日○ 廿丁 織田大和様 琉球人、廿日 一柳兵部少輔様、廿一日○ 廿丁 長府毛利様 日ヶ窪、廿八日 御下屋敷、晦日○ 上野 メ拾六度」   | 4               |
| 12 月           | 7          |    | 2<br>(4)   | 「十二月朔日 御登城 昼分相良様、四日○ 東禅寺 御帰り御下屋敷、五日 八丁 池田様、六日○ 十二丁 分部様 大坂御加番故御見舞」<br>／「御供は金之助引込分章三郎兩人ニ付棒鼻斗、十月中分相勤申候、夫故十五日之御登城斗、心配仕候」   | 2               |
| 1 月            | 10         | 2  | 7          |  | 2               |
| 2 月            | 9          | 1  | 7          |  | 1               |
| 3 月            | 8          |    | 10         |  | 2               |
| 4 月            | 8          |    | 3          |  | 5               |
| 5 月            | 8          |    | 7          |  |                 |
| 合計             | 115        | 27 | 87         |  | 16              |

※4月より7月15日までのデータは天保13(1842)年7月18日「御供の覚」、8月より12月は12月6日の「御供の覚」から作成した。

備考の「」内も同日の記載である。

※供の項目の( )の数値は上屋敷から供出の総数。

※供備考の項目の○印は外右馬が勤務したものを示す。

※4月の日光社参に伴う辻番4回は、火消出動の項に含めた。

小姓)と囲碁なり、七三郎(大町七三郎、大小姓)・与四左衛門(金子与四左衛門、四〇俵五人扶持、厩別当)両方々見物、拙者罷出候得者<sup>者</sup>与四左衛門將ぎ相催申候、然處大へん、其訳は、福田公御引取ニ御会ニ御出被成候後、矢張り我々碁・將ぎ致候処、亥十郎(前掲稲葉)も罷出、小八郎(矢野小八郎、一〇〇石、大小姓)と申候人も罷出、六人にて御座候処、殿様急ニ御通り被成大騒動、茶わんどひんを片付んとする所、実々急ニて小牧氏(小牧玉太、七〇俵、小姓)お先はらい早御出、夫故与四左衛門ハ脇さしを落しなりニ小八郎も御玄関ニ逃込、司書公無刀ニ<sup>而</sup>次上下の御じぎ、亥十郎殿ハ御屏風を立んと致し其俣其所に<sup>而</sup>おじぎ仕り、拙者ハ脇さし追取詰所前之処ニ每通り手をつき申候処、七三郎大用ニ参り袴其所ニ抜捨て御座候ニ付此袴を引たくり後ニなげなりニ御迎申上候処、尤今日ハ殿様も御酒召あがり候哉、御顔もてり御笑被成候<sup>而</sup>脇々を御見廻し被成候<sup>而</sup>御通り、夫々致間敷き訳の碁・将棋ゆへ源介殿迄相談致候処、皆々是迄致候事、已ニ拙者も先刻は御相手申候釣合ニ御座候得共、何分不調法ニちがひ無之候間無念申達候様ニとの事なり、夫々段々人数をかずへ候処、七三郎ハ袴御座候迄与四左衛門殿様<sup>ハ</sup>見られなりに逃候処、番交代後ニ御座候得者<sup>者</sup>先見られぬ所ニ仕り、司書・亥十郎・拙者三人之無念之所重郎治を以て大小姓は申上、拙者ハ与四左衛門を以て申上三之介(前掲上川)殿を呼出し、御取次ハやうやく御番相済候、何分恐入やらおかしひ事やら一寸大騒動仕候、皆其儀に及ばず相済候、誠ニ御身近く勤候事故、我々無調法可有之存候処、ケ様之儀ニ<sup>而</sup>無念申上候事とハ存不申候事ニ<sup>而</sup>御座候(後略)

御殿番の勤務中に、囲碁・将棋に興じていたところ、藩主が通過したため、逃げ隠れる有様だったのである。この件について同僚に相談したところ、皆がやっていることだが、「不調法」ではあるから詫びを入れるよ

図 9 玄関番の様子(天保 14 年正月 4 日)

う指示されたが、わびた結果、藩主も酒が入っていたせいか、とくに処罰は無かった。そもそも碁・将棋が禁止されている（「致間敷き訳の碁・将棋」）ことから考えて、こうした行為は恒常化していたと考えられる。来客の多い繁忙期以外は、かなり閑職だった可能性があるう。

### (三) 供

供は合計八七回で（表3）、正室の供一回（天保一三年三月二三日）を除き、すべて藩主の供である。外右馬自身がまとめたものによれば、四月より七月一五日までが四三回の供出のうち一九回、八月より一二月六日までが五八回のうち三三回を勤めている。行き先は幕府儀礼に伴う江戸城、寛永寺、増上寺、老中への挨拶（「御対客」）ほか、他藩の藩邸への訪問がほとんどである。

御殿番と同様に、出発までの待ち時間、いわゆる「供待」は暇な明き時間であった。たとえば、次にあげるのは訪問した土佐藩邸での供待の様子である（天保一三年一二月九日）。

御供出胸いたミ申候、夫々御土州様御出道ニ<sup>而</sup>亀井様・伊東様へ寒気御見舞御勤ニ<sup>而</sup>土州様へ御出、大名小路老番の御門内へ鎗拾本立御玄関の見込込、夫々休息御取次両度挨拶ニ参りひき茶出ル、中々休息所もりつば、全たひの事ていねひ無限、夫々点句俳諧熊蔵ニ絵と書讀をいたさせ式度弁当、六ツ半時御供揃、夫々御裏門通り御内玄関ニ廻り、六半時の拍子分五ツ半時の拍子木まで股立取り立<sup>而</sup>御待申上、寒くつめたき事筆頭ニ尽しかたし（後略）

冬場の外勤はきつかったらしく、一・一月末より外右馬は胸の痛みを日記で訴えていたが、訪問先の屋敷内では出してもらった茶で藩支給の弁当を食べ、点付俳諧や描画などでくつろいでいる様子がうかがえる。土佐藩邸の内部の記述がなされているように、他家への訪問は幕藩体制の中の自藩の位置を認識するきっかけにもなった。この点については後述

する。

点付俳諧については、大溝藩分部家への供の記事（天保一三年一二月六日）でも確認できる。

（前略）今日陳大小初卸しニて分部様ニ御供仕候、珍重く、夫々分部様休息所ニ<sup>而</sup>天狗俳諧、拙者闇路尋家と題を出し候、三十郎（若林三十郎、一五〇石）殿 ほのかに見ゆるともし火の影 とつけ被成候意ありと見ゆ、御帰り六時（後略）

供待で訪問先の藩邸より食事が出る場合もあった。次にあげたのは、さきほどと同じ土佐藩邸での供待中の接待である（天保一四年二月二九日 図10）。

（前略）今日は御玄関分案内、表御書院の次ニ詰る、例のどくひき茶出る、夫々九時弁当と申所、御膳出づべしと言、三十（前掲若林三十郎）申候ハ御膳出候ものならば只今御取次掛合の料理被下候とのあんなひあるはづと申候、已ニ弁当つかわんとする所、又御取次申参り御膳被下候間、暫時御待被下候との事、なんと難有事ニてはあるまひか、無程、御膳、皿 なまこ、しらが大根けん、汁ちきりつと豆ふ、平 大はんぺん・長いも・こぶ、香物、めし、引<sup>而</sup>御焼物、夫々御吸物 ふしはんぺんほんだわらの様ナ物、坪かき・ほん俵、耐肴 △△△△此様な物のす、膳を取りて、うす茶・御菓子、夫々から腹ふくれて眠り附しばらくなんぎ、七時過又吸物・酒・坪・す肴、引次て御湯づけ、平 うどん・豆腐ニあさ草のり、暖ならば至極よろしく候半ニ、何分御勝手が遠ひやら、諸家様の御供ゆへ、手のまわらぬか知らん、ひへている、香物なら漬にまな、夫々洗茶、気のはつたものだ、しかし諸家様御供と一所でなひから先ツよひ、扱御膳手際三十郎（前掲若林）・司書（前掲稲葉）壺番なれ、登殿（大津留登、三〇〇石、物頭）はすこし見合心、人品ハいつでも登殿壺番なり、四番二座し拙者の次すわり候へども、

登殿の前いつでも茶・多葉粉壹番二出す、米だけくと皆申候、司書・拙者兩人食事相済、はしを御膳の内入れかへす、拙者汁掛ハ臼杵風斗でなく小笠原流ニもある事故、汁のこし居候処、御供頭汁をかけず候故、一口ニぐつとやつた、是がおくれし心持それ斗、(挿図中略) 今日は此方紅梅織の羽織二戸沢の上着仙台の袴新敷物ニ<sup>而</sup>参り大に仕合なり、御菓子つゝみて帰り親む、三之介殿(前掲上川)ニ吹聴致す、在所子供にいたゞかせ度思ひ出し申候、さればこそ小笠原流を若キ時致し居候<sup>而</sup>大ぶんやくにたち申候、流法をきつとせずによいくとはしとに仕る、(挿図中略) 此次七時分又々御取次出候<sup>而</sup>、御酒・坪取肴・御吸物跡ニ<sup>而</sup>御湯づけ被下候、うとん・豆腐・香物・めし、腹へらず、御酒ハ勿論めしも不食候、薄暮ニ御供揃北の御玄関分御駕横つけ股立取候<sup>而</sup>五時前まで立、畢竟御留メ被成候故なり、中々土州様の御ていねひと申ハ江戸ニ参り候衆分毎々兼<sup>而</sup>承り候が、廿四万石も百の字が落候との事ニ<sup>而</sup>御領分百廿四万石とも申候程の大名、しかし肥後・仙台・さつま分ハ御殿か、り小候へども、我々詰杯曇候か日出候哉不分暗御座候十八畳なり、御給事もいづれ御徒已上なるべし、上下きものよろし、我々七人に六七人ツ、入かわり仕候、御取次の御挨拶杯殊之外御丁ねひ、御菓子の後引茶など毎々出、火鉢の火杯子供十四・五の人横麻上下毎度参り礼義の正しき事申分なし、一体此方 殿様をかわゆかり被成候事実々御婿御同前のどし、尤 殿様とハ表ニ<sup>而</sup>ハ御同間無之国主なり、其上御年も余程ちかひ被成候得共、此方御門前を御通行ニハ不意ニ御人有之事もあり、余ほど御氣ニ入り候と見へ申候、我々土州様何事御座候<sup>而</sup>も身をはめ御加勢申度様ニ被存候(後略) 土佐藩主と臼杵藩主の親密な関係の結果である可能性は高いが、二度目は満腹で食べられないほどの豪勢な食事の接待を受けていることがわかる。居眠りの記述もみられるが、居眠りも珍しいことではなかった(天

図10 供待中の接待(天保14年2月29日)

保一三年九月七日ほか。これは、江戸城の下馬先の供待の光景と同様であろう。<sup>(14)</sup>ただし、御殿番に比べ、供は国元よりも緊張感を伴っていたと考えられる。それは他家との接触であった。こうした食事の作法や振る舞いには気づく必要がある、この時は他家（「諸家様」と一緒になかった）のでよかったと述べている。また、自身は小笠原流を嗜んだことが役に立っていたとしているが、これは国元の読み手への教訓的なメッセージであろう。こうした食事や接待と合わせ、部屋の間取りの広さや帰国時の幕府との関係などから、土佐藩の巨大さを実感している。また、髪型について「土州風」を識別している（「御取次衆いづれ六七百石已上の人入替りく罷出御挨拶有之候、髪とく土州風のあとわけ長し」〈図10挿図の註釈〉）。

大村家（大村藩）を訪問した際には、同家の邸内で六家が遭遇することとなった（天保一三年二月一日 図11）。

（前略）夫々大村様ニ御出なり、今日御客松浦壱岐様（平戸藩）・毛利左京様（長府藩）・毛利伊勢様（佐伯藩）・相良様（人吉藩）・秋月佐渡様（高鍋藩）・此方様御六方なり、夫々休息所<sup>二</sup>はひかひ、くらひ、夕方七半時分御供ぞろひ、向に毛利両方・此方共、ならびに松浦・此方・秋月と立候処、相良様御供おそく見苦候、（図11 註）なかなか諸家様御家来とむかひ合候ニ付気はる、壱番ハきものなり、そのつぎ式番ハ大小なり、今日杯五ツよりすくなき衣しやうハ無之、諸家様皆御道具御駕は御門外ニあり、御徒士も御門外御駕脇と申候へば此人数なり、夫々式番ニ此方様御帰之処、柳ノ間御席順なり、諸家様御同勢ニ御駕を引、井伊様御屋敷まへ之方御帰り（後略）

休息所での供待では俳諧に興じていたが、いざ退出時に玄関で他家の家来と対峙した際には「気がはる」としている。その際に重要だったのは衣裳と刀という外見、そして遅れないことであつた。

とくに緊張が生じたのは、他藩の行列との行き交いである。この際に

図11 供先での他家との遭遇（天保13年12月11日）



は、格式に拠る対応が求められた。また、とくに別稿<sup>(15)</sup>で明らかにしたように、江戸城から一斉に各大名が下城する際には、下馬先が大混乱となるため、細心の注意を払う必要があった。たとえば、天保一四年正月八日には、西丸の下乗場へ「加藤様・内藤様・戸田様・度々御乗込」となつて衝突が起こり、幕府の役人（「押へ」）が供頭や駕籠の者を大番所に連れて行くような事態となった。外右馬はこの光景を見ながら、「大名のこみ合程おそろしきものハ無之候」と記している。また、七夕の節句の登城で棒鼻（駕の先頭の役）を勤めた際には、「心中実ニ戦場之心持にて御座候、其中下乗くずれ、御駕ニ引添屏風石の左り御堀ばたに出候処、八十太郎殿（小姓）最早討死之時節参り候と被申候」と記している。戦場を経験したことのない泰平の世の武士にとっては、まさに主君を守り届ける「戦場」だったのである（天保一三年七月七日）。実際に、外右馬は登城の供で次のような経験をしている（同年一〇月一日 図12・13）。

（前略）夫分御出之処、虎の御門内ニかゝり、横分内藤様御出かゝり之処、此方様も走り、内藤様も走り、御はりあいになり候処、此方様行越申候、\*此儀ハ常ニ御座候事なり\*、御行列を待跡分と申候<sup>而者</sup>後れ候故不意ニ走り候、御登城かきらす常ニ御座候、時ニ今朝<sup>者</sup>内藤能登様御駕を投候<sup>而</sup>御駕の者同士喧嘩と成候由、此方棒頭定次郎参り留候<sup>而</sup>居合申候由、図之通（図12）、夫分内藤様分御先ニなり御行れつ立候なり、中々うろたゑては行れぬ事じゃ、夫分御登城、（中略）夫分御下り之処毎之通り諸家様御供分之御礼を受ケ、下馬ニ<sup>而</sup>林介殿（稲葉林介、大小姓格）にふり替り申候、今日西丸の下馬立候故、土手つき御廻りにて外桜田御番所まへ亀井様の御跡につき候処、亀井様御同勢又いそき立候處、加藤様御行列西丸下分御出被成候<sup>而</sup>、此御番所様御出合之処故、亀井様御いそきなり、此方様も亀井様に引つづき又急候處、亀井様の御馬に此方御駕をつきかけ馬がさわぐ処、御挟箱持を此方様駕の棒にてつき倒し候、拙者

前二はい出になり申候、其外御合羽駕押の人々右往左うにミだれかかり図のとし（図13）、右之釣合ニ亀井様御同勢二つきかけ、御徒士ハ左二はづし、亀井様ニそひ走り申候、此方御駕ハ矢張りわざと亀井様ニ引つき参候、夫ゆへ亀井様の御馬押のへん大ニさわぎ、此方御駕の者駕の棒にて亀井様御箱をつきたをし、拙者の前をはい廻り申候、もちろん此方様御駕も横ニなりつきかゝり候ゆへ、拙者ハ亀井様御行列の右ニ出候<sup>而</sup>大廻り致し、御駕の脇にやうやくそひ申候、殿様三十郎（前掲若林）ニ被仰候<sup>者</sup>、外右馬ハ箱の者より金丸をつかまればせぬかと御咄御座候由、御前の方よりハ拙者股くらをはいぬけ候やふ見へ申候、後に三十郎殿大わらひにて此咄なり

（後略）

城に向かう際には、延岡藩（七万石）内藤家の行列と出会い、お互いに後れを取るまいとして競争になった。こうした競争は登城に限らなかつたという。そして、競争の結果、内藤家の駕籠の者が駕籠を置き、臼杵藩の駕籠の者と喧嘩をはじめたのである。臼杵藩の棒頭が止めに入り、結局内藤家が先行して進むこととなった。しかし、登城だけではない。下城の際は津和野藩（四万三〇〇〇石）亀井家の行列の後ろに付いたが、臼杵藩が急いだためか、駕籠で津和野藩の挟箱持を突き倒し、横から追いつくこととなったのである。

さらに、登城前の月番老中への挨拶・陳情（「御対客御用」）は、老中役宅というより狭い空間で大名が行き会ふこととなったため、混乱が絶えなかつた。たとえば、天保一三年六月二三日には水野忠邦の屋敷への供を勤めた際には、その混雑ぶりを国元の祇園祭にたとえ、密集の度合いや、臥煙によつて羽織が破られること、兼ねてより藩主を守るように供頭から指示されていたことが記されている（「以之外大込ニ<sup>而</sup>祇園踊やまにせられ候様御座候、へくさひやら汗くさひやら、其中くわゑん杯ハ荒く羽織引さく事もあり、兼<sup>而</sup>より殿様を御かこひ申べく御供頭分御

図 12 供先での喧嘩 1 (天保 14 年 10 月 1 日)

図 13 供先での喧嘩 2 (天保 13 年 10 月 1 日)

図 14 御対客御用での混乱(天保 13 年 10 月 3 日)

図 15 御対客御用での混乱(天保 13 年 10 月 3 日)

沙汰有之候」。同年一〇月三日の老中土井邸の混雑は以下のようなものであった（図14・15）。

（前略）土井様之御門開き無之しばらく待申候処、殿様御先ニ鍋嶋様・林様・細川様・内藤様御詰被成、跡ニも黒田様・織田様・溝口様御せりかけ被成居申候処、御門明候やいなや、どつとせりかけ大込合図のごとし（図14）、図の、とくなく／＼おそろしき事なり、十内は溝口様御駕の棒ニ合羽をつき破られ申候、三十郎殿（前掲若林）ハ足をふまれなりにせられこけ候へども、人二つきかゝりこけられず、其俣殿様をかこひ申候、拙者ハ殿様の前をはらひやう／＼御通シ申上候、誠ニ御対客ハおそろしきものなり、第一 殿様方之御あぶなひものじや（後略）、

門前に臼杵藩を含めて計八藩の行列がひしめきあい、開門と同時に一挙に押し寄せたため、藩主を守り、前を払ってようやく通行できたが、同僚は羽織・合羽を破られ、足を踏まれたという。「誠ニ御対客ハおそろしきもの」なのであった。

#### （四）使者

参勤交代や役職就任の挨拶、中元・歳暮の届けや返礼について、使者を務めるもので、二七回確認される。外右馬自身のまとめによれば、「五月廿五日分司書殿（前掲稲葉）・喜一郎殿（仲村喜一郎、一〇〇石、大小姓）・外右馬三人廻りにて当月十五日迄拾貳度外右馬、惣数諸員之日記いまだ不相改候処、四拾五六度も可有之哉と被存候」（天保一三年七月一八日）とあり、三人で分担した。使者では駕籠もしくは馬を用いた。次にあげたのは、小浜藩主酒井忠義の寺社奉行役職就任と鳥取藩主池田慶行の元服の祝いの使者の例である（天保一三年六月一日）。

（前略）今日の御使者ハ歴々ニ而三拾貳万石因州様先月廿八日御登城候処御元服被蒙仰、御一字御刀御拝領、御盃頂戴 従四位下侍従ニ

被為成、御名因幡守と御改被成候御歛なり、酒井様ハ御奏者ニ而寺社御加役之御怡なり、扱夫々駕を申上一昨日通りきりばうにて新橋ハ大鍋嶋を左ニ仕り、日ビや御門今やすがし龍口前松平因州ニ罷出ル、御取次岸本庄介、夫今ときわ橋を出候、すじかひ橋ニ出、柳原を通り、藤堂様御屋敷を右ニ仕り、酒井様ニ罷出る、御取次藤田光右衛門\*但し因州様ハ中門御座候而此御門のくゞりより入る\*、此酒井様ハ御玄関御使者口も無之様相見候故、御玄関今上ル、拾万石御門も御玄関もほそく御座候、先此辺二里余りと申事ニ而御座候が、御影ケにて此辺見物仕候、帰りハ昌平橋今松平伊賀・土井能登・松平五左衛門\*府内様\*・稲葉丹後様・杉浦出雲守様御屋敷通り、神田ニ出候而両酒井之御屋敷をぬけ龍口ニ懸り、土井大炊様御屋敷を右ニなし、やすがし今新橋通り御屋敷ニ帰り\*日入過なり\*、御使者口上申上（後略）

この時、外右馬は臀部に腫を煩っており、かつぐ棒の短い駕籠（「きりぼう」）で移動した。使者の勤務を通じて訪問先や通過する屋敷の観察をしている点、ルートを詳細に示している点にも留意しておきたい。

#### （五）方角火消

火消については、常に屋敷の周囲三丁の火消（三丁火消）が各藩邸に課されていたが、滞在中には、在府大名の加役である江戸城への延焼を食い止める方角火消（桜田組）が天保一三年一月に臼杵藩に命じられている。秋月藩に替わっての勤務で、相番は水口藩加藤家であった。<sup>16</sup> 出動の告知の記載の中で、「誠ニ火事之事ハ軍之法令ニ相違無之、板木を打、先見ハ拍子木・鉦を相図ニ御詰替等下知有之事」（天保一三年一月一〇日）としているように、外右馬は火消を「軍の法令」と認識していた。一三日には半日かけて同僚と出動範囲と集合場所（「立場」）を確認し、一七日には初めて藩主の馬脇での出動を体験する。この時は「立

場」での待機で終わり、藩主の出で立ちを「中々勇々敷事ニ候得者、殿様御玄関御将机右ニ威たけき御姿粧、兜とハ金のすじに鍬形白らしや御紋ちらし、下ハ黄らしや二枚重ね、御羽織ハ紫、采配を御取被成有」と褒め、帰還する行列を「此御行粧、誠ニ見事と申候も、御在所ニ<sup>而</sup>ハたとゑんかたもなく賑々敷勇々敷気色なり、初<sup>而</sup>罷出候処置にて大仕合と存候、諸人見人山の如し、皆稲葉様ハ四十七人の絵を見たよふ有之と申候由、お帰りハしづく有之<sup>而</sup>御供安く御座候」と自画自賛している。

しかし、実際の消火の現場に直面すると、そうした出陣意識は消し飛んでいく。次に示したのは、実際の出動の例である（天保一四年正月二十六日 図16）。

（前略）夫々忠助帰り重郎治（前掲石田）おこし帰らんとする所、越前様御屋敷失火、板木を直し候故、皆々いそぎ帰る、拙者どうぎ・さる股引<sup>ふ</sup>こしぎしまて用意致し早々罷出る、其世話しさいつもとわ申ながらごんご同断、しかし提灯高張位ハ梅・左五（外右馬の家来）仕出申候、乗出さんとする時、早鉄ほう世話しき事手づめなり、八世すがし<sup>ふ</sup>見るに、越前様御屋敷之由、ケ様火事近く見候事初<sup>而</sup>なり、扱夫々一番・忒番乗出し候処、御馬廻り之馬、例のおそ馬にて一向ニ追付不参候処、跡々八十太郎参りしばらく一所ニなり候処、是も見失ひ加藤様之高張と先常盤<sup>（常盤間）</sup>をさして参候処、道三橋<sup>（トウサンハシ）</sup>ニ<sup>而</sup>火ノ子はら<sup>くく</sup>参り、往かふ人きつしり、然るに殿様御詰所は一向不明、此方ハ只忒騎、左五郎もいか、なりしや、鎗も高張も一向不見、常盤ニ出候処仕合ニ重郎治（前掲石田）ニ出合候ニ付、此あとに付銭亀橋を渡る処司書モ只忒騎、御詰所者いづくと申参る、夫々足輕兩人参り、大手之御詰と承り、秋元<sup>（久世）</sup>様横通り伝奏屋しき堀田様参候、此間御殿女中之落人数ハ不限参り、火の子はら<sup>くく</sup>おそろしき事なり、司書気早ニ<sup>而</sup>又一騎となり先へ馳行、此方ハ重郎治之馬ニつけ矢張行候処、右之堀田様ニ<sup>而</sup>石田氏ニも後れ又一騎と成、此所

図16 火消の出動（天保14年1月26日）

二加藤様ハ旗本斗り御立被成候、此へんならん存候所何分大手と申候二此辺二も不被待、和田倉を乗入、吉凶御門(桔梗力)に向ふ所足輕兩人二出合、西大手二ハ御詰無之と申、夫分此者共と又和田倉をぬけ龍口分堀側を東大手ニ参候処、諸大名之立場目を驚し候、此中二も此方様御見不被成候、夫酒井様の前二むかひ候処、雅楽頭前二 殿様御立、三之介殿(前掲若林)被参候斗、村井氏・稲葉氏いまた不参、重郎治ハ御留守主役を助、\*明朝御法事前御見舞之献上有之候二付\*掛付札を出す、無程司書(前掲稲葉)・八十太郎も参り候処、下夫一向二不参、高張を老人二而式持候釣合なり、間部様裏之方なり、加藤様御詰前ハはらく、諸家様同勢いろく、下夫までおそろしき事無限、夫分弁当各替りあひつかひ、六時過御引取、今晚者加藤様之次なり、新シ橋通り、此御行列のねむさつめたさ無限(後略)邸内の他の長屋の宴会から帰ろうとしたところで出動に至っている。冬の期間の記載では毎晩板木の音を気にしており、緊張が解けなかったようである。実際の火事場は「おそろしき事無限」といったものであった。出動した同僚の経験として、定火消との交錯が記されている(天保一二年十一月二日 図17)。

(前略)先日牛込の方ニ久五郎式番騎馬にて参り、一ヶ谷(市谷)ニ詰替候節、定火消の中にのり込、打落され落馬のうへに溝二入、どろに成候由、富士見辻番とて一ヶ谷参候道はゞせまく、山下より広く鉄砲町ぐらひの道なり、定火消\*公儀の人\*大勢参候二付よけんとするに、小出様(園部藩、方角火消)の騎馬右ニ立候而六ヶしく、左ニよけんとする時まぐついたと見へる、久五郎殿挑灯を打落され自分ハ溝ニ落込候而御中間二助られ候由、今日之御目付騎馬重郎治(前掲石田)・御留守居市郎助(竹〈武〉山市郎助、四〇俵三人扶持、留守居)ハ二人共先二のりぬけ是二追付候事もならず、物頭騎馬大津留氏二つけ参候時のよし、登殿(前掲大津留)ハのりぬけ候よしなり、恐る

図 17 火事場での混乱(天保13年11月21日)



べし／＼、又此夜半蔵御門ニ詰候御旗本何がしハ御堀に落候よし、井伊様前を鉄太郎馬ニて帰候節、馬の声が何ぶん死候様聞候と咄申候よし、已前阿波様の御小姓と喧嘩の咄し、又此間の右の始末承り候へば、只々頼むハ神仏なり、誠に戦場／＼（中略）先火事がなふて拙者大仕合（後略）

出動したところ、狭い道で定火消と遭遇し、他の者は何とか抜け切れたが一人は避けきれず落馬して堀に落ちたという。また、この夜には半蔵門に詰めていた旗本が堀に落ちたなどの話があり、詳細は不明だが以前には徳島藩の小姓との喧嘩もあったという。火事で頼みになるのは神仏ばかりで、まさに「戦場」だと述べている。

また、このほか、緊張を伴う特殊な状況として、天保一四年四月二日より二〇日の将軍が日光社参中の警備があげられる。この間は、外右馬たち大小姓には邸外の辻番への泊番が命じられた。当初の勤務割は、以下の通りであった（天保一四年四月一五日）。

（前略）十二日夕拙者共閑日と申ハ一日も無之、\*十二日辻番固、十三日騎馬まへ、十四日辻番、十五日御供番、十六日御殿之御番、十七日辻番、十八日御番、十九日辻番、廿日御供番、廿一日\*（後略）このち、一六日以降の御殿番は「御祐筆御供附御納戸之衆中替り合」となっている（天保一四年四月一九日）。なお、次に掲げたのは、辻番詰の記述である（同四月二〇日）。

（前略）辻番頭加藤金蔵と申人ハ直心流の由、山田常蔵と申人好き若者に御座候處、太平洋陰流剣術の免状位の人と咄ぶり見受候、鎗は宝蔵院の咄にて何所の師匠やを尋候處、伊州様御内露木七郎治殿\*五百石之由\*、どこの御屋敷ニ居候哉尋候得者、赤坂天王寺丁の先き、天王の前を通りおしばら横丁と申所ニ住居之由、形ハ太刀合今先御在所の様ナ事の由、勝負ハ合かぎ・すやり・十文字合、面且入身も有之候よし、合がまハ尤免状まへより取申候、金の鎌二皮を

させ候由、頭二打こむやふニ致しおしひしき候か、肩先をしがみ候由、突手ハ無之由、九尺四六の鎌といふ、拙者参度事ハやま／＼、併し下り前にて都合あればよびが、扱其中色々稽古咄し之處、右常蔵兄弟子京極様内ニ<sup>而</sup>近頃道場出来稽古有之由、又堀様分辻番ニ被参候鎌次郎と申人、去々年已前御めしか、ゑにて三十斗の人名人の由、是一統流と申事なり、先日より鎗術の咄し、毎々仕かけ候得共、御世事の江戸者じまん位かと存候處、少々は致候人と見へ申（後略）外右馬が武術の稽古に関心を抱いている点や、当時の道場の状況がうかがえる点も興味深いが、ここではとくにこうした辻番詰で、他藩（「堀様」ほか）の藩士と接点が生まれている点にも注目しておきたい。

#### （六）勤務による経験

以上の勤務はいずれも大名社会における交際、幕府との政治的な関係という江戸特有の職務であり、国元では経験しない格式の世界の体験であった。とくに行列の行き交いは重要であった。このため、外右馬は、とくに江戸城や寛永寺の法要といった他の大名家との接点が生じる供にそなえ、武鑑、さらに「かりた」（かるた）を使用して空き時間にくりかえし学習している。このかるたに類似すると思われるのが、本館所蔵の「大名武鑑軽板」（文政一〇（一八二八）～天保四（一八三三）年）である（図18・19）。このかるたは、大名二六八家について、上の札には屋敷付・江戸城での詰間・居城・石高を、下の札には「酒井雅楽頭」のごとく大名の名前を、それぞれ手書きで記したものである。そして、上の札に居城地に朱筆でよみがなが付けられ、下の札の裏に上の札と同じ屋敷付・詰間・居城地・石高が記されていることから、読み手が居城地を読み、取り手が大名の名前を探して上の札の内容を読み、ひっくり返して答え合わせをするという行為を繰り返して、上の札の内容を暗記するであろう。外右馬は一人で学習していることから、「か

りた」はおそらく下の札のような表裏の記載で、供先で相手を認識するための情報として馬印や鎗印、中間の看板を記したもので、さらに必要に応じて旗本についても作成していたと考えられる。

次に示したのは、久々の棒鼻勤めを前日に突然命じられ、あわてて予習している様子である（天保一三年九月一四日）。

十四日、七ツ時分御供割をぎんみ致候へハ、明朝之御登城ハ又拙者棒鼻なり、\*御供割いまた書出し無之候故、章三郎殿（藤田章三郎、一〇〇石、馬廻）御供のつもりゆへなり\*、然處明日之棒鼻ハ西丸御勤ゆへに下乗分下馬の間拙者御供頭にてはだかを御合セ申候、大やくなり、右二付大ふさぎ\*当月初分御出少く御座候故二かりた修行おこたり居申候ゆへ、急々の修行\*、夫分武かん二百式拾・御旗本三十四五方斗くりかへしく、今日暮六半時分まで仕り、あまりくつたくゆへ、夕飯過キ一寸御供頭二うつさんのため参候処、司書殿\*明日御供頭三十郎引込\*被申候ハ、拙ハ明日之勤諸かつ孔明のきまへにて最早休候との事なり、三十郎殿ハ本を高々と読ミ居申候、拙者<sup>茂</sup>其俣かゝり又一へんの修行にて休申候、しかし胸中ハまへくより度々<sup>二却</sup>而<sup>一</sup>氣遣イニおほへ何やら寝人がたく、九ツ時休ミ七時過まで眠申候（後略）

西丸への登城で供頭となる「大やく」であったため、七ツ時から暮六ツ時までひたすら武鑑かるたで大名二二〇家および旗本三四・五家を繰り返し繰り返し学び（「かりた修行」）、寝る前にもう一度学習したが、なかなか寝付けなかったという。

また、以下は寛永寺の法事への供に向けた予習である（天保一四年一月一九日）。

（前略）御大名一遍修行仕候、上野<sup>者</sup>中々御旗本分御大名まで誰二御出合もはかりがたく且つ道中も長く候故、心配仕候（後略）

江戸城よりさらに北の寛永寺（「上野」）は、旗本まで参加するため、誰

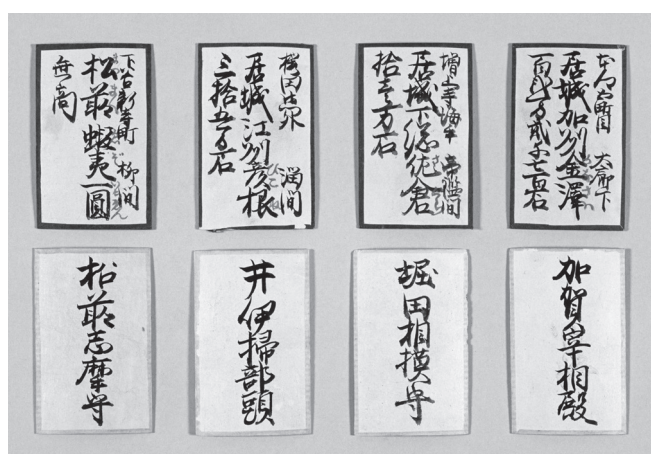


図 19 大名武鑑軽板（本館蔵）



図 18 大名武鑑軽板（本館蔵）

に行き会うかわからず、さらに移動距離が長いため心配だとしている。実際に、寛永寺の法事で同僚の藩士稲葉司書が西大平藩大岡家へのお辞儀のタイミングを失敗し、留守居が相手に侘を入れるという事態も起こっている（天保一四年二月二日）。

（前略）夫々御参詣、今日御徒士ハ黒門外落し候、棒鼻御駕脇御刀番斗りなり、御衣裳皆年始同様ニ御座候、大小名上野御参詣有之右図（図20）のどく諸家様御出合無限事ニ候、司書大岡様ニ御時宜を合不申候而無調法を申上候処、不及其義候得共御留主居を以御挨拶御座候、重ひ事じや御役人ゆへなり（後略）

なお、図20には、老中（松代藩主）の「大じん門」通過に際して下座する外右馬たちが描かれ（「我々如此拜カミテイル」、各藩の行列について、「大國ノ駕脇ハ布衣ナリ、真田様紋ハナシ、此方様モ此御衣裳ナリ大紋ナリ、モンハナシ、旗本ハ布衣ナリ、布衣ノ方宜キヤウニアル」「侍従・少将ハ勿論、有馬・伊達・宇和嶋位ヨリ四品マテ此傘ニ御駕脇・棒鼻此通り也、年始ノゴトシ」と服装が記され、やはり格式への関心が示されている。失態をしないためにも、外右馬は日常から他藩の行列道具に関心を持つこととなる。

（前略）今日初而松浦大和様・本多伊予様御道具を拝見仕る、夫々小野様ニ而府内五左衛門様の御道具拝見仕り（後略）（天保一三年五月七日）。

（前略）夫々ほていやの前にて加納大和守様御帰国ニ出逢候処、りつばな事、先ニ引馬式挺立、対の御鎗（図）夫々（図）二重のはぐま鉄ほう御駕中々一万石位の常の（図）此鎗老本の人とハ見へ不申候、御駕の脇ニ片鎌の御手鎗御持柄の鎗式本なり（後略）（天保一四年三月七日 図21）

もちろん、道具を覚えるということは、すなわち格式や序列を覚えると

図20 寛永寺参詣の状況（天保14年2月2日）

図21 上総一宮藩加納家の鎗印  
（天保13年5月7日）

図 23 江戸城内騎射馬場の図  
(天保 13 年 12 月 15 日)

図 22 下馬先の各家の鎗印  
(天保 13 年 12 月 15 日)

いうことにほかならない。また、次にあげるのは、年始の登城に備えた武鑑の購入と下見の例である(天保一三年二月一日 図 22・23)。

(前略) 今朝ハ下馬見ニ参候存ねん、最早来年始の下タ見と成申候、夫々昨夜濡申候小もんわた入二火のしをかけ湯をつかひ、神様を拝し食事其俣仕舞仕り、武かん懷中、夫々壱人左五郎引つれ参候処、金之介殿ニ安芸様前に出合同道、夫々本庄様の前にて武かん百三十三式文にて調へ申候、其中金之介見失ひ申候、拙者ハ矢立ニ<sup>而</sup>西丸下の御道具ニ印をつけ、夫々西下馬に参る(図 22 西下馬の図)、金之介ニ又出合しばらく烟草杯のみ、金之介ハ下馬を見候と申分れ申候、拙者新武かんゆへ段々あらため印をつけ直ニ東下馬ニ行、和田倉ハ松平志麻頭<sup>(孝)</sup>さま御固メ、夫々龍の口々酒井様まへ、東下馬ハ相済居申候、西丸ニ有之故なり、夫々一ツ橋ニぬけず御堀ニそひ御城御門を左ニして竹橋御門ニかかり、是々半蔵御門をぬけ申候、此所ハ御城中なり、有徳院様御代より通行さし免され候よし、右柵門あり、是紅葉山御廟所ニ参候御門のよし、夫々右ニ取り向ふの道清水御門なり、又左ニまわり五六拾間長屋左ニあり、公方様山王御祭のねり杯此所々上覧之由、此御長屋ニ御出口吹上御庭之由、瀧見之御茶屋も此所のよし、御長屋々竹松の堤内ニ<sup>而</sup>一向ニ不相分候、此所ニ<sup>而</sup>御直参之侍供連候次上下の人ニ出合申候処、年配よろしく色々御内之咄杯承り候處、吹上ケとハ四ツ谷玉川水を水戸にて御庭ニ吹上ケ候ゆへケ様ニ申候由、御場所中々く<sup>(洲カ)</sup>広く田杯先ニハ御座候由、川御座候<sup>(洲カ)</sup>、<sup>(洲カ)</sup>も有之候由、夫々土手二つき左へ廻り候處御番所有之、中の番所と申候由、已前通行二人をあやまる者有之<sup>(めカ)</sup>ニ付、此番所出来候由、矢張竹橋御番今此所も持候由、左ハ竹おひ茂り松杯御座候<sup>而</sup>鳩の打込山など見候様有之、三ヶ所程土手の間堀ニ橋掛り御門有之、閉候<sup>而</sup>平日之通用無之と被存候、夫々左ニ廻り大松段茂り上をうつくしくはらひ有之、同道の侍被申候ハ此所々富士山見へ申候よ



し、其ゆへ二松の縁をはらひ有之、松の上分きれい二見へ申候、御城中此所一番土地高く御座候よし、扱又通行ハ商人にても馬にても致候、御使者等待分ハ勿論の由、植木材木ハならぬ事にて根のあるものハ小木にても根ニ風呂敷を掛け通り候由、夜ハ九ツ時まで朝ハ六時分通行差免し有之、女ハ暮分禁之との事なり、乍去御城中故、何やらきびわろき様ニ御座候、夫分半蔵御門ニ行ぬけ件の侍と分れ申候、扱今日先刻見候御長屋戸杯開き有之、明朝騎射御覧之由、旗本御納戸あたり明朝分九ツ時まで騎射有之候由、同道の侍被申候ハ、騎射故明日昼迄ハ往来留ニ御座候、外を廻り候へバ拾丁のちがひと申候、久敷留り候<sup>而者</sup>下方大きな迷惑候由、尤先日御覧御座候犬追物杯ハ吹上御庭之内のよし、騎射斗り此所なるよし、去年大久保様御杯御頂戴も吹上御庭ニ<sup>而</sup>馬術御覧と相見申候、扱夫分扱夫分半蔵御門をぬけ下りニ御堀ばたを通候所、御堀の鴨おびた、し、先真鴨がちなり、白鳥式羽浮居候が真白ニ大きく相見申候、夫分井伊様御門ニ下り、此所ニ<sup>而</sup>大久保出雲守・同金五郎様御父子ニ出逢、夫分霞ヶ関を下り、虎の御門分帰り食事（後略）

江戸城の施設の巨大さへの驚嘆や、幕臣との遭遇なども注目される。さらに、こうした職務が、国元では会うことが出来ない人々に会う、あるいは見たことのない光景を見るところという体験を生んだことにもあらためて注目しておきたい。

まず、自藩の隠居、正室である。たとえば、九月二〇日には、本所の原庭屋敷に供奉し、庭園や女中、そして「大殿」を目の当たりにして、「今日之儀<sup>者</sup>此節江戸ニ<sup>而</sup>誠ニケ様之仕合御座候与存候、実々難有仕合奉存候」としている。「大殿様」については「是迄拜し申上候釣合よりハ御物ごし御姿とも御若き事大ちがひと奉見上候」としている。

そして、行列での対応のために他藩の格式を必然的に覚え、さらに供や御殿の接客で他藩の屋敷を直接見、藩主の姿も見ることになる。到着

から間もない四月一六日の接客では、他藩主の風貌が記される。この日御殿番を勤めた外右馬は、来客の大名を観察して感想を述べている。

（前略）御屋敷ニハ御大名様方毎々御入有之候處、中川様\*大若子\*りつばな人じや、京極様御長ニ<sup>而</sup>御入、伊東修理様御出が、りの御客、先日分今日まで引続御客の処、右御三方ハ拜し申上候処、三拾二足や足らすの御方と奉見候、加藤遠州ハ拜し不申候処承り候へは三拾余と承候、もつたいたなく候へ共当所ニ参り御大名様方と心安くなり候心持有之候

江戸にいたることによって、他藩の藩主を目の当たりにすることができ、まるで親しくなったかのようなのである。四月には、江戸へ到着した臼杵藩主への挨拶で大名が藩邸に続々と来訪した。同様に、同二三日の御殿番では、人吉藩主を「御年まだ十六七ぐらひぞ、そこおしき人の様見受奉る、御槍・かんばん絵のどし」と、苗木藩主遠山美濃守を「せひ高く廿二三斗、横麻」、「黒田様」を「聞及候荒者才子、御色黒く、せいはひくく、腰ぐみ候、気色中々一くせ者と御見受申上候、此方様分ハ御年ばいお上へならんか」とし、藩主の印象を記すとともに、苗木藩と「黒田様」の「お槍・かんばん図のごとし」として、行列の鎗印・足輕中間の看板を武鑑の図と対照している。

また、仙台藩の帰国の行列を見た同僚からの情報を次のように記している（天保一三年四月二六日）。

（前略）今日仙台様御帰国にて皆々見物ニ被参候處、拙者ハ不参候、なか／＼大そうなる事にて絵図のどく鉄炮六拾丁弓六拾丁、日本ニケ様之行列無之由、但し常々御屋敷御番所ニ狸々皮・鉄炮かざり有之、上川公（前掲上川三之介）初御帰之上の評判ニ、加賀・薩州も遠方故ならぬ哉とも被申候、当時公義御取しまりの時節ゆへ大ぎやうなる御沙汰有之候得共、陸奥様御自分之力にて被成候故少しも御<sup>まわ</sup>かもひ不被下候様被仰候評判なり（後略）

仙台藩の行列を日本で比類なきものとし、天保改革のさなかで行列の簡素化が命じられる中にあっても咎めを受けないということが市中に評判になっている、とする。

藩の格差は、屋敷にもあらわれる。先に供で訪れた他藩の屋敷の内部の描写に注目したが、外観についても記述が頻出する。到着翌月の一日には大名小路近辺を同僚に案内され、「皆々大きく候<sup>而</sup>鍋嶋・土州様杯ハ肝をつぶし申候」と述べ、同天保一三年七月二六日には次のように加賀藩邸について記している。

（前略）夫々加賀様御屋敷を見候処中々百万石丈、さつ州・仙台分も大二御座候様相見候、御門ハなべ嶋・長州・土州よりハ大分ほそし、乍去はなち門ゆへ朱門りつば、其上御門前ひらけ道も広く御座候、幸橋辺の代地是分参り候由（後略）

大名屋敷を複数見ていった結果、序列を認識するようになるのである。こうした結果、自藩も含めた格差や序列を改めて認識するようになる。

五代藩主正室（「通玄院様」）の百五十回忌で江戸の菩提所東禅寺に香典を届けた際には、僧侶に頼んで位牌所を見学し、「備前岡山様の御位牌所」や「仙台様の御位牌所」などを見、「伊東様の御位牌所、池田備前様之次なり」としている（天保一三年六月一〇日）。複数の大名家が同じ菩提所となることのある江戸において、各家の施設が家の規模の表象として機能している点も興味深いが、この時には自藩の菩提所を見て「此方様横分入込候九畳、布二<sup>而</sup>壱通り之御飾り、かもひ床縁黒ぬりばかり入口開戸両方角三の金紋、但し諸家様方々ハ御間もせまく案内ニ対し佐伯（豊後佐伯藩）分少き方ニて気毒ニ存候」と述べ、菩提所における格差を痛感している点が注目される。さらに寛永寺の供などを通じて、おのずから幕府の権威もすり込まれていくことになる。

なお、もう一点注目しておきたいのは、仙台藩の行列を「絵図のごとく」と記述していることである。初めての下馬見に際しては「竹越山城

守様・田村左京介様<sup>（右の誤りカ）</sup>絵分きたなし、一柳兵部少輔・柳沢弾正・仙石讃岐・分部若狭・青木駿河様・松平長門様・加藤大蔵・細川能登様絵分大きく候」と記述している（天保一三年四月一日）。こうした行列や屋敷は市中で販売される絵画の画題にはなっていないから、おそらく白杵藩士の中で画像の情報が流通していたと考えられよう。こうした事前の情報にもとづいて見分し、その結果を日記に記して国元に送っていると考えられるのである。

## おわりに

本稿では、白杵藩士国枝外右馬が天保一三（一八四二）年三月より翌一四年六月までの初めての江戸勤番中に執筆した「国枝外右馬江戸日記」について、勤番武士の日記の作成意図、勤務日数や行動の基礎的な情報を整理し、基礎的な分析を行うとともに、勤務の内容を検討した。

第一に、本日記の執筆動機や意図を明らかにした。日本近世における日記の多くは本人のみならず家を想定して書かれていると思われ、他の八戸藩士・庄内藩士の事例も同様と思われるが、とくに本日記が、手紙のように頻繁に送られた国元への報告という性格をはっきりと持っていることが特徴としてあげられよう。勤番武士の日記の検討にあたっては、こうした視点が今後不可欠であろう。

第二に、行動についての概要を検討した。外右馬の場合、外出日は三七%で、外出の六七%が二キロメートル以内（「近辺」）、三三%が二キロメートル以上（「遠出」）となっている。ここで、筆者がすでに分析してきた八戸藩の上級藩士遠山家日記（天保一幕末の一〇回分）、庄内藩の中級藩士金井国之助の日記（天保一幕末の四回分）と比較しておきたい。八戸藩士は平均して外出日が二四%で、二キロメートル以内が外出の八六%であった。庄内藩士は、記載日のうち外出日が一八%で、こ



のうち二キロメートル以内の外出が六〇%であった。ただし、庄内藩士の場合は日記の記載が日によって精粗があり、直近の外出が省略されている可能性が高い。このように考えると、本事例では外出日がやや多く、また行動範囲もやや広い傾向があるといえよう。

また、外出先については、Ⅰ南郊・西郊が最多の五九%、次いでⅡ日本橋・京橋・内神田が二二%、Ⅲ外神田ほか北郊が一%、Ⅳ深川・本所が六%である。本事例と同じⅠのやや南（麻布市兵衛町）に居住した八戸藩士の場合、Ⅰが八一%、Ⅱが一〇%、Ⅲは六%、Ⅳは三%となっている。一方、居住する屋敷がⅡに属する（神田橋内）庄内藩士の場合、Ⅰが一三%、Ⅱが四四%、Ⅲが一六%、Ⅳが八%、不明が四%である。共通するのは、いずれの屋敷でも遠いⅣが極端に少ない点である。また、Ⅲについては屋敷の近い庄内藩がやや高い傾向にあり、本事例は屋敷がⅡにも近いため、Ⅰ・Ⅱの割合が高くなる、という傾向が指摘できよう。

このように、本事例における行動範囲は、藩邸を基準とする他の二事例と同様の傾向を示すが、外出日数の多さと行動の広さが指摘できる。回数については外出の札が多い可能性があり、また行動範囲については、二事例では確認できなかった駕籠や馬の使用が要因として想定される。今後の課題としたい。

第三に、勤務の内容から、外右馬の経験を検討し、自藩の大名社会における位置の認識、ひいては幕府権力の壮大さの認識を持つに至った可能性を指摘した。これは政治都市・儀礼都市江戸における勤番による特徴的な経験であり、こうした情報が伝えられることによって、格式が広く認識されていたのではないかと考えられる。

本「日記」は豊富な内容を持ち、まだ多くの視角から検討が可能である。今回は基礎的な研究にとどまったが、今後勤番武士の江戸認識、勤番武士と周辺地域の関係などを明らかにしていく予定である。

註

- (1) 岩淵「八戸藩江戸勤番武士の日常生活と行動」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第一三八集、二〇〇六年)、同「江戸勤番武士が見た「江戸」―異文化表象の視点から―」(『同』第一四〇集、二〇〇八年)、同「庄内藩江戸勤番武士の行動と表象」(『同』第一五五集、二〇一〇年)。なお、本文で触れる八戸藩・庄内藩の事例の内容は、この拙文による。
- (2) 白杵市教育委員会蔵。日記全体に表題はなく、「国枝外右馬江戸日記」は同館が登録している内容表題である。
- (3) 酒井博・容子「勤番武士の心と暮らし」、文芸社、二〇一四年。初出は「國枝外右馬の江戸詰中日記考察」その1〜8(『津久見史談』七〜一四、二〇〇四〜一〇年)。
- (4) 岩淵令治「他国者がみた江戸―江戸勤番武士の江戸表象―」(『総合誌歴博』一七一、二〇一二年。筆者は二〇〇二年に白杵市教育委員会の岡村一幸氏より同日記の所在を御教示頂き、放送大学古文書の会の諸氏と読解を行いながら、断続的に分析をすすめてきた)。
- (5) 翌年同日の日記の回想の記述による。
- (6) 前掲「勤番武士の心と暮らし」。
- (7) 以下、白杵藩士の氏名・石高は『藩士録』(白杵史談会、一九九五年)、役職は主に「日記」の記述に拠る。
- (8) 文人との交流については、前掲「勤番武士の心と暮らし」で紹介があるほか、筆者も国際浮世絵学会第82回研究会において口頭報告している(「江戸勤番武士と江戸・錦絵」、二〇一二年一月二八日)。
- (9) 前掲岩淵「他国者がみた江戸―江戸勤番武士の江戸表象―」。ほか、前掲「勤番武士の心と暮らし」。
- (10) ケヴィン・リンチ「都市のイメージ」(岩波書店、一九六〇年)、中村豊・岡本耕平「メンタルマップ入門」(古今書院、一九九三年)ほか。本絵図は江戸出府から間もないものであるから、グリッジのアンカー・ポイント理論における第一段階の図にあたる。ただし、主要な職場と居住地が藩邸で完結しているため、生活圏に特化しているといえる。また、自身の体験のみならず、先着していた同僚や江戸定詰の情報が反映されている点では、いわば白杵藩勤番武士共通のメンタルマップともいえよう。
- (11) すでに、シンポジウム「江戸武家地の空間変容」(科学研究費助成事業基盤研究(B)「江戸武家地の空間変容に関する文理統合的研究」成果報告 二〇一五年一月二四日)において、「江戸勤番武士と地域」として報告しており、活字化する予定である。

- (12) 登城をめぐる問題については、岩淵「江戸城警衛と都市」(『日本史研究』五八三、二〇一一年)、同「境界としての江戸城大手三門―門番の職務と実態―」(『東京大学史料編纂所研究紀要』二二、二〇一三年)、同「江戸城門番役の機能と情報管理」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第一八三集、二〇一四年)を参照。
- (13) 江戸の消防体制や大名火消については、岩淵「江戸消防体制の構造」(『関東近世史研究』五八(二〇〇五年))を参照。
- (14) 岩淵「江戸城登城風景をめぐる二つの表象―名所絵と歴史画のあいだ―」『年報都市史研究別冊 江戸とロンドン』山川出版社、二〇〇七年。
- (15) 同前。
- (16) 天保一三年一月一二日に藩邸に届いた「御令」は、「田村右京太夫様三万石、細川能登守様鉄砲洲三万五千石、木下肥後守様二万五千石備前、嶋津又之進様貳万七千石日向砂土原、小出伊勢守様二万六千石丹波、内藤駿河守様三万三千石信州高遠、加藤能登守様、此方様御八方様合印有之」とあり、この八家で方角火消を勤めたことが確認できる。また、天保一四年二月一六日には、相番交代の挨拶で「夜中八時九鬼様より御使者加藤能登様御跡御防被 蒙仰候<sup>二</sup>面桜田組御相役の由御使者申参る」とあり、天保一四年『大成武鑑』三(出雲寺版)(国立国会図書館蔵)の方角火消桜田組の項で「稲葉能登守」が確認できる。方角火消については、前掲岩淵「江戸消防体制の構造」を参照。
- (17) H「一六五五。木箱(箱書「武鑑輕板」)の中に、「老之上」・「式之下」などと墨書された四つの紙帙に一三四枚ずつ収められている。年記はみられないが、下の札に「称清水」として、「徳川恒之丞」(文政三(一八二〇)年生、文政一〇年に当主となり、天保四(一八三三)年より元服して斉彊)が記されていることから、一八二八〜一八三三年に作成されたものと推定される。そして、他の大名の幼名で変更されていない者があり、最新の年代は天保四年四〜二月であることから、使用年代の下限が知られる。なお、同資料は「新収蔵資料の公開」展(国立歴史民俗博物館、二〇〇六年一〜二月)において、公開された。江戸東京博物館でも同じ性格をもつと思われる「大名加留多」が所蔵されている。比較検討を今後の課題としたい。
- (18) 岩淵「Characteristics of egodocuments in Edo period Japan (一六〇三―一八六七)」François-Joseph RUGGIE, *Les usages des écrits du for privé Afrique, Amérique, Asie, Europe (P.I.E. PETER LANG 110113)*。なお、何のために「日記」を記すのかという論点については、ヨーロッパのエゴドキュメント研究から刺激を受けた。

(学習院女子大学国際文化交流学部、国立歴史民俗博物館客員教員)

(二〇一四年九月二九日受付、二〇一五年三月一九日審査終了)

---

## Activities of Usuki Clan Samurai Warriors on Duty in Edo

IWABUCHI Reiji

Samurai warriors dispatched for duties in Edo, a giant capital city, from their home domains on a regular basis played an important role. Most prior studies on the activities of samurai warriors on duty in Edo focused on their outings, especially trips, and described them as country bumpkins who had been scornfully called “Asagi-ura” by the permanent residents of Edo or as free people who had enjoyed sightseeing in the capital city. In contrast, the author has analyzed the diaries and life manuals of samurai warriors with the following three approaches: (1) being free from their image as country bumpkins created by the permanent residents of Edo; (2) analyzing all of their activities including those on working days and non-outing days; and (3) covering both short and long outings. Thus, the author has discussed the image of Edo as seen by outsiders, the discovery of their own culture through experience in the city (a different culture), and the merchants and communities supported by their consuming activities.

This paper analyzes *Kunieda Tōma Edo Nikki*, a diary written by Kunieda Tōma, a middle-class retainer of Usuki clan, during his first duties in Edo, to reveal the following three points.

First, the diary has clear characteristics as a report to his family in the home domain since it was frequently sent like letters. The future studies of samurai warriors on duty in Edo will need to take this point of view.

Secondly, this paper examines the outline of the activities recorded in the diary and compares them with those of Hachinohe and Shonai clans' samurai warriors that were previously analyzed. As a result, this paper reveals the following three points: (1) like other clansmen, Tōma rarely travelled more than 2km from the residence of his clan due to his duties and restrictions on outings; (2) in particular, he seldom visited places far from his clan's residence, such as Honjo and Fukagawa; (3) he had a little more outing days and a wider sphere of activities than others.

Thirdly, the analysis of his duties to examine his experience indicates the possibility that he gained recognition of the position of his clan in the daimyō (feudal) society and the magnificence of the power of the Tokugawa Shogunate. This was a typical result of the experience from duties in Edo, a political capital full of rituals. It seems that the transmission of the information acquired in the city helped to spread formalities.

---

Going forward, it will be necessary to accumulate case studies of different conditions (e.g., different ages in history, sizes of clans, classes of retainers, and locations of clan residences) in order to compare and analyze all the activities of samurai warriors on duty in Edo.

Key words: early modern city, Edo city, samurai warrior on duty in Edo, sites to see, an ego-document of a samurai warrior on duty of alternate-year attendance in Edo